

東京紀尾井町キャンパス  
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26  
TEL. 03-6238-1300

**城西大学**  
**城西短期大学** <http://www.josai.ac.jp/>

坂戸キャンパス  
〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台 1-1  
TEL. 049-286-2233

**城西国際大学** <http://www.jiu.ac.jp/>

東金キャンパス  
〒283-8555 千葉県東金市求名1番地  
TEL. 0475-55-8800

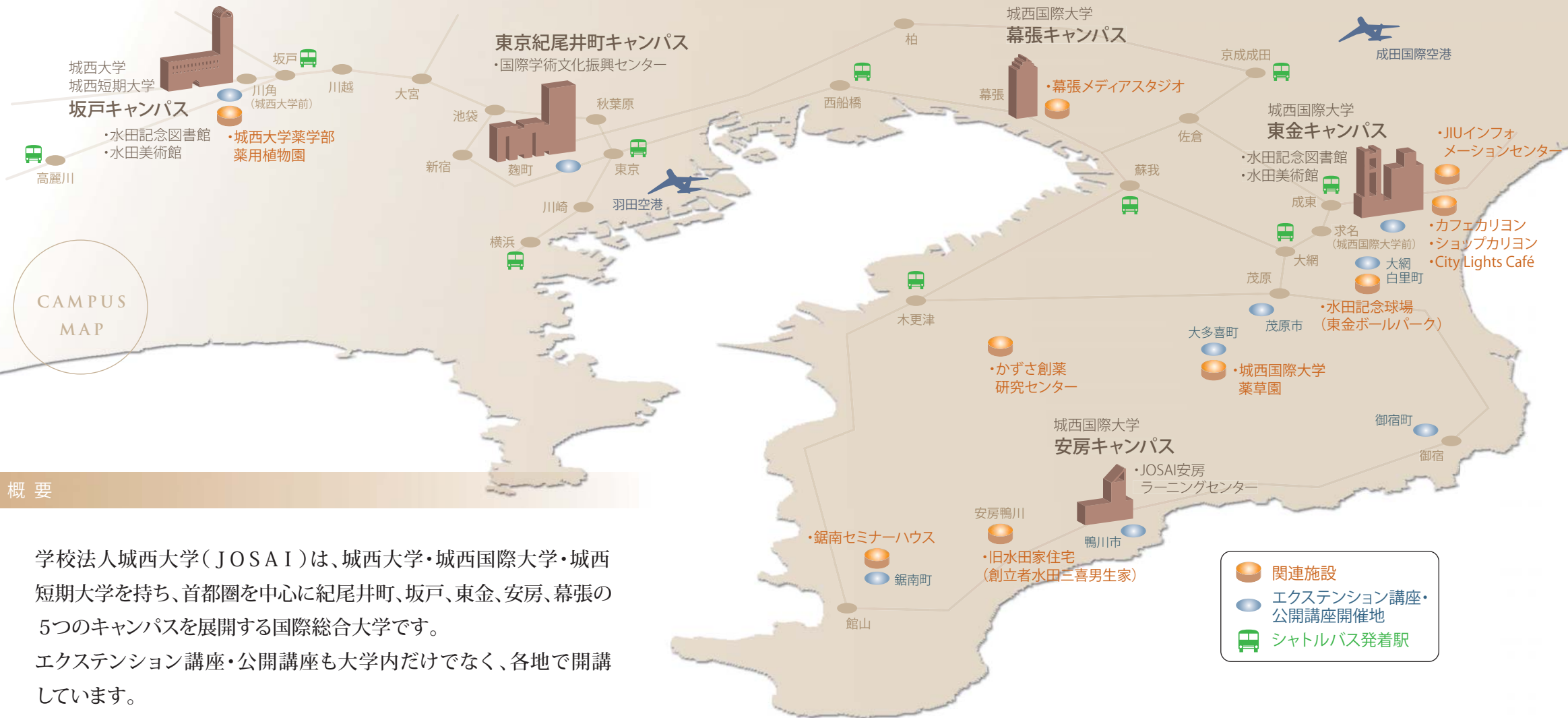
安房キャンパス  
〒299-2862 千葉県鴨川市太海 1717  
TEL. 04-7098-2800

幕張キャンパス  
〒261-0023 千葉県千葉市美浜区中瀬 1-7-1  
住友ケミカルエンジニアリングセンタービル 22 階  
TEL. 043-297-2521

次世代育成、健康推進、グローバル教育への取り組み

大学の社会的責任を果たすために

2010 JOSAI UNIVERSITY  
JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY  
JOSAI JUNIOR COLLEGE



CAMPUS MAP

大学の概要

学校法人城西大学(JOSAI)は、城西大学・城西国際大学・城西短期大学を持ち、首都圏を中心に紀尾井町、坂戸、東金、安房、幕張の5つのキャンパスを展開する国際総合大学です。  
 エクステンション講座・公開講座も大学内だけでなく、各地で開講しています。

城西大学

坂戸キャンパス

- 経済学部 □ 経済学科
- 現代政策学部 □ 社会経済システム学科
- 経営学部 □ マネジメント総合学科
- 理学部 □ 数学科
- 化学科
- 薬学部 □ 薬学科(6年制)
- 薬科学科(4年制)
- 医療栄養学科
- 大学院 □ 経済学研究科 経済政策専攻
- 経営学研究科 ビジネス・イノベーション専攻
- 理学研究科 数学専攻
- 理学研究科 物質科学専攻
- 薬学研究科 薬学専攻(博士後期課程)
- 薬学研究科 薬科学専攻(博士前期課程)
- 薬学研究科 医療栄養学専攻(博士前期課程)
- 別科 □ 日本文化専修課程
- 日本語専修課程

城西国際大学

東金キャンパス

- 経営情報学部 □ 総合経営学科
- 国際人文学部 □ 国際文化学科
- 国際交流学科
- 福祉総合学部 □ 福祉総合学科
- 薬学部 □ 医療薬学科(6年制)
- メディア学部 □ メディア情報学科
- 環境社会学部 □ 環境社会学科
- 大学院 □ 人文科学研究科
- 経営情報学研究科
- ビジネスデザイン研究科
- 福祉総合学研究科
- 留学生別科 □ 日本文化・ビジネス専修課程
- 日本語専修課程

安房キャンパス

- 観光学部 □ ウェルネス・ツーリズム学科

幕張キャンパス

- メディア学部 □ メディア情報学科

城西短期大学

〈城西ベースカレッジ〉

坂戸キャンパス・東京紀尾井町キャンパス

- ビジネス総合学科 □

**東京紀尾井町キャンパス**  
 〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-26  
 TEL. 03-6238-1300

**坂戸キャンパス**  
 〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台 1-1  
 TEL. 049-286-2233

**東金キャンパス**  
 〒283-8555 千葉県東金市求名 1 番地  
 TEL. 0475-55-8800

**安房キャンパス**  
 〒299-2862 千葉県鴨川市太海 1717  
 TEL. 04-7098-2800

**幕張キャンパス**  
 〒261-0023 千葉県千葉市美浜区中瀬 1-7-1  
 住友ケミカルエンジニアリングセンタービル 22 階  
 TEL. 043-297-2521

CONTENTS

- 3 理事長 緒言  
次世代育成、健康推進、グローバル教育への取り組み  
大学の社会的責任を果たすために
- 地域・社会貢献活動
- 5 学校法人城西大学創立45周年プロジェクト
- 7 坂戸地域の活性化
- 8 埼玉地域の活性化
- 9 東金地域の活性化
- 10 鴨川地域の活性化
- 11 生涯教育を各地で展開
- 12 地域連携プロジェクト
- 13 産学連携プロジェクト
- 15 ボランティア活動
- 16 健康で豊かな人生のために
- 国際社会への貢献
- 19 ハンガリーとの交流
- 21 中国・大連との交流
- 22 韓国・釜山との交流
- 23 学会・シンポジウムの開催
- 25 同窓生との連携
- 26 文化・出版を通しての貢献
- 文化振興・文化資源保存活動
- 29 房総地域
- 31 文化財修復・保存
- 32 建築賞受賞
- 新しい取り組み
- 33 子どもたちとともに
- 35 政策提言による社会貢献
- 37 Message
- 38 編集後記



学校法人城西大学  
理事長  
水田宗子

## 次世代育成、健康推進、グローバル教育への取り組み 大学の社会的責任を果たすために

学校法人城西大学は、城西大学・城西国際大学・城西短期大学を持ち、首都圏を中心に5つのキャンパス(紀尾井町、坂戸、東金、安房、幕張)において、大学としての社会的責任を果たすべく、次世代育成、健康推進、グローバル教育をキーワードに、大学における教育・研究に加えて、地域・社会貢献、文化振興・文化資源保存活動、国際社会への貢献など、多岐にわたって活発な活動を展開してまいりました。その中の代表的な取り組みについて、この冊子に紹介しましたので、ご覧ください。

**地域・社会貢献活動** 各キャンパスにおいて、大学の学部や立地などの特徴をいかしたエクステンション講座を開講し、毎年多くの受講生で賑わっています。大学内での開催だけでなく、近隣の地方自治体へ出向き講義を行う「出張講座」も長年続けてきています。

◆城西大学(JU)では、キャンドルナイトとして、学生食堂から出た廃食油をリサイクルして教職員で作ったキャンドルを作り、その光の中で地域の方々とともに愛と思いやり、そして安心・安全なキャンパス、環境に配慮した社会を創りあげてを誓う夜としました。吹奏楽団による演奏会やイルミネーションナイト、高麗川ウォーキングなどを通じ、多くの方が大学を楽しみました。

◆城西国際大学(JIU)では、カリヨン通りにカフェや東金第一号店となるエコショップをオープンしました。安房では、国際医療通訳のボランティアを通じ、患者さんやその家族の方に喜ばれています。環境社会学部では、メダカの繁殖を通じ、地域の環境向上に取り組んでいます。また、2011年4月からはエイベックスや日活との産学連携を通じての人材育成もはじまります。

**文化振興・保存活動** 両大学に水田記念美術館を設置、創立者水田三喜男の浮世絵コレクションの一般公開をはじめ、地元ゆかりの画家の特別展を催しており、多くの方々にご来場いただいております。また、2006年にはじまった、外房と内房をつなぐ生活道路である嶺岡林道の桜並木の修復もJIU観光学部と地元の方々が一緒になり、桜並木が鋸南町まで続くよう大切に大きく育てています。

**【建築賞受賞】** 各キャンパスや施設の景観にも心を砕き、いくつもの建築賞(清光会館:1992年さいたま景観賞、鋸南セミナーハウス:第12回千葉県建築文化賞/第32回東京建築賞建築作品コンクール優秀賞、JIUランドスケープデザイン:1996年日本建築学会賞・2006年度日本造園学会賞、水田家生家:第10回千葉県建築文化賞、城西大学経営学部棟:2008年全米建築学会Merit賞)を受賞しています。

# 2010

JOSAI UNIVERSITY  
JOSAI INTERNATIONAL UNIVERSITY  
JOSAI JUNIOR COLLEGE

**国際社会への貢献** 2009年のハンガリー共和国ショーヨム・ラスロー大統領閣下の本学訪問を記念して制定された水田宗子ハンガリー奨学金制度により、6名の留学生がやってきました。また、大連地域と連携し、日中連携博士課程もスタートし、19名の学生たちが学び始めています。大連市との関係は深く、大連市より、城西国際大学へは、中国での福祉人材育成のための奨学金が制定され、福祉マネジメントができる人材育成を期待されています。インターナショナル子どもクリスマスパーティや、International Poetry Reading、大連四行連詩座談会なども開催され、幅広く文化的な活動が展開されています。

**【政策提言】** 2008年、学校法人城西大学は、「現代政策研究センター」を設立いたしました。これは、私どものキャンパスの一つが、政策決定の中核機関となる永田町にも霞が関にも近い紀尾井町に位置することから、「大学の知」を政策提言につなげ、国家の福祉に役立ちたいという志によるものです。今年度は、文部科学省GP事業に認定されている介護の国際基準と専門職養成プログラムの開発にむけて、ノルウェーとフィンランドを視察し、姉妹校を交えて意見交換を活発に行いました。また、紀尾井町キャンパスでは、若手政策ダイアログ、グローバル政策イニシアティブフォーラム、坂戸キャンパスでは、日本地方自治研究学会を開催し、さまざまな視点から政治に関連する議論がなされました。

私どもは、2015年に城西大学が創立50周年、2012年に城西国際大学が創立20周年を迎えます。これまでの地道な活動を大切にしつつ、これからも継続的に、次世代に文化を伝え、人材を育成し、健康で豊かな暮らしのため大学の「知の還元」をはかり、国内外の文化・研究交流の推進に取り組んでまいります。

本冊子を通して、学校法人城西大学の取り組みについて、ご理解いただければ幸いです。

学校法人城西大学  
理事長

水田宗子

## 学校法人城西大学 創立45周年プロジェクト

### 学校法人城西大学創立45周年記念シンポジウム 「日本経済・危機からの脱出に向けて」開催

2011年2月23日、45周年を記念したシンポジウムが、紀尾井町キャンパスにて開催されました。「日本経済・危機からの脱出に向けて」をテーマに、150名を超える参加者を迎えました。

今回のシンポジウムでは、国内外から経済の各分野の第一線で活躍されている、東京証券取引所代表執行役社長 齋藤惇氏、株式会社日本格付研究所代表取締役社長 内海孚氏、国際金融情報センター顧問 大場智満氏、韓国・中央大学経営学教授 金東淳氏の4氏をお招きし、日本経済の危機からの脱出の道を探っていただきました。

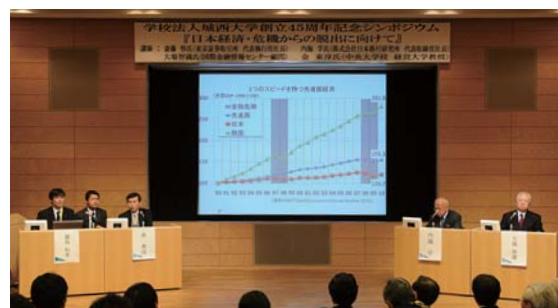
シンポジウム前半では、日本経済の危機とその脱出策について、齋藤氏には証券市場の分析を通して日本経済の再生・活性化の方策、内海氏には国際金融の面からみた日本経済の再生策、大場氏には財政面、国際金融面から、特に最新の情報とユーロ危機の分析を通して再生の道を提言いただき、前半の最後に金氏から韓国経済の再生とその後の躍進策についてご講演いただきました。

後半のパネルディスカッションでは、霧島和孝現代政策学部教授をコーディネーターとして議論されました。

今回のシンポジウムでは、日本経済が「失われた20年」からいかに脱却できるか、その道筋を探っていただきました。日本経済の危機からの脱出に際して、急速に拡大する新興国市場をいかに取り込めるか、いかに財政再建を図れるかが課題となるでしょう。



講演する齊藤東京証券取引所社長



ディスカッションの様子

### クリスマス・イルミネーション・ナイト

2010年12月18日に学校法人城西大学創立45周年記念行事として、城西大学にてクリスマス・イルミネーション・ナイトが行われました。このイベントを目標に、近隣の皆さん、学生たちが大勢キャンパスに集いました。

ダンス部シューレースがヒップホップ・パフォーマンスを披露し、水田宗子理事長、森本雅憲学長、世界ジュニア陸上日本代表田村成美さん（経営学部1年）、草野素雄副学長、木下高志県議会議員の挨拶の後、点灯式が行われボタンを押すと、キャンパスのイルミネーションが一斉にとまりました。

その後、吹奏楽部アンサンブル、グリークラブと木の会のコーラス、ハンガリー留学生によるハンガリー舞踊が繰り広げられ、教職員や学生も輪に加わって会を盛り上げました。

最後にメインイベントとして、経営学部非常勤講師である坂上順子先生率いるジャズバンドがディキシランドジャズを演奏してくれました。留学生達の作った料理、スープ、ケーキなどに舌鼓を打ちながら、数百人の出席者は寒さに震えながらも1920～30年代のアメリカの音楽を堪能し、古き良き時代の「クリスマスの夜」を満喫しました。

また、会場ではクリスマスマーケットが開かれ、ツリーを飾るオーナメントやハンガリー人留学生が作った色とりどりのお菓子が並び、地域の皆さんもよろこんで買い、にぎわいました。



吹奏楽部アンサンブル

## 学校法人城西大学 創立45周年プロジェクト

### 安全とエコの取り組みーThree LOVEs & キャンドルナイトー

2010年7月17日、城西大学において、「Three LOVEs & キャンドルナイト」を開催しました。地域の方々、オープンキャンパスで本学を訪れた高校生など多くの方が参加しました。

Three LOVEsは、自分自身の心身を大切に、相手の存在を尊重しようという「Love Ourselves」、自分の通う大学を大切に充実した大学生活を目指そうという「Love Our Campus」、そして大学周辺地域のことを知りその恩恵に感謝しようという「Love Our Community」の3つの「Love」を柱としています。

第1部では占い、ヨガ、エコ雑貨制作の無料体験ができるコーナーや、毛呂山町商工会や坂戸市観光協会などを含む22店が出店してバザールが開かれました。ステージでは大道芸やよさこい踊りなど多くのパフォーマンスが会場を盛り上げました。また、本イベントの目指す「安心・安全・自由で環境に配慮した社会」の実現に向けて、その決意を表明するためにマーチングが行われました。事前に学生が書き上げたプラカードを持ち、約1時間かけて、大学周辺地域をゆっくり行進しました。

そして第2部のキャンドルナイトでは、学生食堂から出た廃食油をリサイクルして学生と教職員と一緒に作った約1,000本のキャンドルが、光り輝きました。最後に経営学部益子和さんが「城西宣言」をし、安心・安全・自由なキャンパス、環境に配慮した社会をみんなで創り上げることを誓いました。Three LOVEsの3つのLOVEを大切にすることを、学生、教職員、地域住民が共有することを改めて誓いました。

「Three LOVEs & キャンドルナイト」の実施にあたり、全学が一丸となって取り組みました。特に本学では女性人材育成支援に力を入れており、学部を超えて参加した女子学生、そして「女性リーダー育成奨励生」の女子学生が企画・運営に大きな力を発揮し、マネジメント能力やリーダーシップを体験するよい機会となりました。



地域のみなさんとよさこい踊り



キャンドルナイトコンサート

### サントリーホールで城西大学・城西国際大学吹奏楽団コンサート

2010年9月5日、学校法人城西大学創立45周年を記念した「城西大学・城西国際大学吹奏楽団コンサート」を東京都港区赤坂のサントリーホール・ブルーローズで開催しました。テーマは「さらなる飛躍に向けて」で、城西大学と城西国際大学の吹奏楽団が初めて共演するコンサートとなりました。東京近県から約350名が来場し、満員の客席からは演奏が終わるたびに盛大な拍手が起こりました。

第1部では城西大学吹奏楽部とグリークラブが「A Huntindon Celebration」などを演奏しました。第2部に登場した城西国際大学吹奏楽団は「ロシアの皇太子」「少年時代」「コルシカ島の祈り」を演奏し、来場者を魅了しました。

そして第3部では両大学吹奏楽団に、城西国際大学手話サークルである「スターダスト・キッズ」を加えた総勢約70名による合同演奏を行いました。演奏終了後も拍手は鳴り止まず、アンコールの演奏を行うなど、大いに盛り上がりました。



多くの観客を迎えて

## 坂戸地域の活性化(地域活性化)

### 政策研究プロジェクト「滝不動前お花畑プロジェクト」

耕作放棄地の活用などを研究している城西大学現代政策学部の石井雅章政策研究プロジェクト(セミナー)では、地元の農家から休耕中の田畑を提供してもらい、ハーブの栽培やお花畑づくりを通じて、耕作放棄地活用に関する政策提言を目指しています。活動2年目となる今年度は、城西健康市民大学との連携による農作業による健康プログラム、本学薬科学科フレッシュマンセミナーとの連携によるハーブの栽培・加工を通じた製品企画づくり、滝不動前お花畑プロジェクトなど、複数の取り組みを実施しました。大学の教育プログラムの一環として耕作放棄地を活用することで、学生たちは社会的な課題を実践的に解決していくことになります。



薬科学科と共同作業でハーブの栽培

この取り組みの特徴のひとつは、異なる学部や異なる世代の人びとと一緒に活動していくことにあります。城西健康市民大学との連携では、プロジェクトの学生と市民大学の受講生が共に畑を耕し、収穫したとうもろこしから作ったスープを食べながら、健康についてのディスカッションを行いました。滝不動前のお花畑プロジェクトでは、毎年実施される「高麗川ふるさと健康ウォーキング」に合わせてコース途中にお花畑を準備して、参加者に楽しんでもらいました。

全国で埼玉県と同じくらいの面積があるとされる耕作放棄地を、地域と大学が連携し活用していくこの取り組みは、2011年度にはさらに活動の範囲を広げていく予定です。

### 高麗川ふるさと健康ウォーキング

城西大学は坂戸市と「市民の健康づくりに関する連携協力協定」を締結しています。坂戸市では、市民の健康を願って、「健康と活気に満ちたまちづくり」を重点施策と位置付け、市民の健康増進のための各種事業を行っています。



高麗川のほとりをウォーキング

坂戸市は、毎年、県内有数の清流「高麗川」のほとりに整備した「高麗川ふるさと遊歩道」を利用し、北坂戸駅から城西大学までの約12kmのコースで、「高麗川ふるさと健康ウォーキング」を開催しています。ゴール会場となっている城西大学では、学生・教職員が参加者の出迎えをするなど、このウォーキングに、全面的に協力をしています。市内外から訪れた多くの参加者は、高麗川ふるさと遊歩道から見た坂戸の自然や秩父連山の風景を満喫しています。例年、高麗祭開催期間に高麗川ふるさと健康ウォーキングが開催され、参加者の皆さんはゴールの喜びとともに、活気溢れる高麗祭も楽しんでいました。

今後も、坂戸市をはじめ地域との連携をはかり、地域社会の形成・発展を目指します。

### 城西大学経営学部「まちづくり」クリーンキャンペーン

2011年1月19日、北坂戸駅前に城西大学経営学部の1~3年生230名が集合し、クリーンキャンペーンに参加しました。これは、「まちづくり」という授業の一環として、学生が大学のある街に貢献する活動です。2008年からプロジェクト研究科目として開始し、年間を通して地域の様々な「まちづくりプロジェクト」を企画し実行しています。学生は、県議会議員の木下氏や、坂戸市職員5人とともにごみ袋とトンゴ



まちづくり230名の城西大学生がごみ拾い

を手に、腕章やタスキを身に付けて、グループ(一班10名位)別に順次出発しました。北坂戸駅から坂戸駅まで2コースに分かれ、ゴミ袋を一杯にしようと大通りだけではなく路地裏にも入ってゴミ集めを行いました。ゴール地点である坂戸駅北口では商店街の人々も加わって、「まちづくり」ボランティアの学生達が持参したゴミを計量し、班毎に重さを競いました。皆で総重量150kgにもなるゴミを回収することができました。また、街の人々からは「ご苦労さん!」と声がかかり、直接に感謝の言葉をいただき、学生は充実感と達成感を得ました。

## 埼玉地域の活性化(地域活性化)

### 「リレーフォーライフ2010 in 川越」に城西大学薬学部チームが参加

2010年9月18日~19日の2日間、対がんチャリティーイベント「リレーフォーライフ2010 in 川越」に城西大学薬学部チームが参加しました。



城西ののぼりをかかぎて行進

リレーフォーライフは、がんを患っている患者さんやその家族、がん医療の発展への支援を目的としたチャリティーイベントで、24時間タスキをつなぐリレー・ウォークの他、がんの早期発見のための啓発やがんへの理解を促進するものです。

城西大学ではこのイベントを後援し、薬学部から3講座1サークルの総勢80名余りの学生および教職員が薬学部チームとして参加しました。

前日のイベント会場準備や、当日のルミナリエキャンドルの準備、ボランティアとしてイベントのサポートや、タスキリレーを夜間出来ないチームのタスキを預かったり、様々なお手伝いを行いました。もちろん、薬学部チームとしてのタスキリレーも24時間行いました。

学生にとっても、教職員にとっても、病気に向き合う方々と接しているいろいろなことを考える非常に意義のあるイベントになりました。特にこれから医療人になる学生たちにとっては貴重な体験となりました。



リレーフォーライフ感謝状

薬学部チームの参加に対し、リレーフォーライフ川越実行委員会なら

びに財団法人日本対がん協会リレーフォーライフ統括事務局より感謝状をいただきました。参加した大勢の学生・教職員が元気一杯に、特に若さ溢れる学生が、このイベントを盛り上げることに大きく貢献したことに対する感謝状です。

### ふるさと支援隊

#### 紅梅の地域ブランド化への地域連携

越生町は「越生梅林」を中心として首都圏近郊の梅の産地として昔から有名です。しかし、梅を取り巻く環境は、生産者の高齢化にともない、担い手の不足、放棄園の増加、生産量の減少という逆スパイラル現象に陥っています。



剪定は大切な作業

このような現状に対して、紅梅を特許庁の地域団体商標に登録してブランド化することによって、担い手不足を解消する振興策にしようと取り組む「梅産地を元気にする協議会」と城西短期大学ビジネス総合学科のふるさと支援隊の考え方が一致し、協議会のメンバーに加えられました。協議会は梅生産者、役場経済課、JAいるま野、川越農林振興センターなどの専門家から構成されており、毎月一回の会議を開いています。

これは、2010年5月に埼玉県農林部農地活用推進課が「中山間地域ふるさと事業調査研究業務」を立ち上げ、中山間地域の集落の活性化を目的とした提案募集に、城西短期大学早川ゼミナールが応募した商標化の企画が採択されてはじまったものです。

学生達はこれまでに、アンケート調査の実施、梅の剪定体験、イベントにおける特産品販売などを担ってきました。また、地域団体商標の取得に向けては、城西短期大学の教員が、商標登録への前提条件や申請プロセス、地域団体商標・登録商標・地域ブランド認証制度の相違などについて協議会で説明し、メンバーに対してブランド化への意識の高揚に努めています。

## 東金地域の活性化(地域活性化)

### カリヨン・ストリートに「City Lights Café」オープン

2010年6月25日に「体に安心な自然健康の店」をコンセプトに、有機栽培のコーヒーや紅茶とともに音楽や詩のリーディング、トークそしてギャラリーも楽しめるカフェがオープンしました。

カフェでは、環境を守っていきこうという思いを込めて、レインフォレスト・アライアンス(熱帯雨林同盟)が認証する、環境、野生生物、労働者、地域社会を守るための厳しい基準を満たした原料から作られたコーヒーを提供します。この認証コーヒーの収益の一部は森林を守るために使われます。また、食器は森修焼や旨陶焼を使用しています。これは、釉薬に天然石を用いて鉛やカドニウムなどの有害物質を使わない安全な陶器です。

メディア学部プルチョウ次郎先生がミュージックダイレクターに就任し、学生デュオLOFT(三好隆文:大学院ビジネスデザイン研究科1年、田原猛:メディア学部メディア情報学科1年)がミュージックアシスタントとしてライブハウスの運営にあたっています。学生だけでなく地域の皆さんが集い、出会う、憩いの場となっています。



地域の皆さんが集うカフェ

### ショップ・カリヨンが東金市エコショップ第1号店に認定

このたび、城西国際大学が運営しているショップ・カリヨン(JR東金線求名駅前)が、「東金市エコショップ」として登録認定を受けることとなりました。

「東金市エコショップ」は、ごみの減量化やリサイクル活動に取り組み店舗を東金市が認定する制度で、厳しい認定要件があります。

ショップ・カリヨンではエコマーク商品の販売や簡易包装、ゴミ減量化・再資源化の呼びかけを行っています。また、環境社会学部と協力してプラスチック製容器のリサイクルや店内生ゴミ処理機にて精製した有機肥料の利用を行うなど、環境活動への積極的な取り組みをしています。それらが評価され、ショップ・カリヨンが「東金市エコショップ」の第1号店となりました。

ショップ・カリヨンではエコグッズや地元野菜の販売などを行っています。ぜひお立ち寄りください。



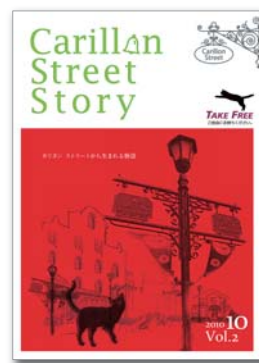
ショップ・カリヨン

### 「Carillon Street Story」発刊

2009年9月に求名駅と城西国際大学を結ぶ道を、町の方々と「カリヨン通り」と名付け、街灯(カリヨンランタン)を4基と、皆さんに休んでいただけるようベンチを2つ置きました。

カリヨン通りには、エコショップとしてリニューアルしたショップ・カリヨンと、コーヒーとともに音楽やリーディングを楽しめるCity Lights Caféが新しくオープンして、町の人々が集う通りとなっています。また、同人誌「カリヨン通り」も創刊から1年が過ぎ、第6号まで発行されています。

このようなカリヨン通り発の文化活動を、より多くの方に知っていただくよう、地域の方と企業と一緒にフリーペーパー「Carillon Street Story」が発刊されました。カリヨン<鐘>にまつわる様々な国のストーリーとともに、City Lights Caféでの催しや、城西国際大学で楽しめる美術館やピオトープの紹介もしていただいております。東金地域の文化交流のひとつとして楽しまれています。



「カリヨン通り」

## 鴨川地域の活性化(地域活性化)

### 医療通訳ボランティアの活動

2010年春に城西国際大学観光学部では、日本の医療機関で唯一、国際医療認証基準(JCI)を持つ、亀田メディカルセンター(鴨川市)を訪れる訪日外国人患者やその家族を対象とした観光学部生の通訳ボランティア(医療行為に関する通訳を除く)に関する覚書を締結しました。

これによって、本学学生は医療現場において医療ツーリズムやホスピタリティを生で体験し習得すると同時に、さらに多くの外国人患者等の受入れを促進し、鴨川市の発展にも寄与することとなります。特に中国語と日本語に堪能な中国からの本学留学生は、中国人富裕層患者等を対象とした通訳に大いに期待がもたれています。

今後、訪日外国人患者等が増えるにつれて、医療専門の通訳の需要が伸び、その資格化も検討されていることから、今回の提携はその先駆けとなりました。通訳ボランティアに参加した郭麗娜さんは「今まで日本語の勉強で苦労してきたことが役に立ちました。決して間違えてはいけないことなので誠心誠意、患者さんに対応しました」と感想を述べています。



病院の広報担当者より院内の説明を受ける中国人留学生

### サマーフェスタ in 安房

城西国際大学観光学部が鴨川市に安房キャンパスを開学して5周年を迎えました。これを記念し、2010年7月30日から8月7日までサマーフェスタを開催しました。

メディア学部の学生がスタッフや出演者として関わった映画「ドン・ロドリゴの来た道」の上映や、城西中学・高校と鴨川少年少女合唱団によるジョイントコンサート、地元の皆さんによるフラダンスなどを企画しました。最終日には、歌手で城西国際大学観光学部客員教授の加藤登紀子氏による「地域社会・町おこし」をテーマとした講演会&ミニコンサートが行われま



鴨川市民の皆さんによるフラダンス

した。地域の皆さんのほか、鴨川を訪れたたくさんの観光客にも安房キャンパスにご来場いただきました。

フェスタ期間中は、東金キャンパス水田美術館共催「浮世絵の出来るまで」と森洋子(福祉総合学部助教)展「子供たちのみる夢」を常設展示しました。またご来場の皆さんには大学で作ったハーブティーをサービスしました。

### ポピー大使に観光学部生

千葉県館山市にある「館山ファミリーパーク(オーシャンヴェールリゾート)」が主催する「3代目ポピー大使」に城西国際大学観光学部2年生の広田真菜さんが選ばれました。

館山ファミリーパークの「ポピーフェスティバル2011」の開催期間中、近隣の市や町や施設を巡って花を届けたり、各地で行われるイベントに参加して「花の南房総」を県内外にピーアールします。

広田さんは「館山は市を挙げて花をピーアールしているまちです。ポピー大使としてそのお手伝いをしたい」と語り、観光振興の一役を担っています。



ポピー大使の広田さん(中央)

生涯教育を各地で展開

東京紀尾井町エクステンション講座の展開

◆「東京スカイツリー®建設プロジェクトを解説する」

634mの自立式タワーの建設は、誰も到達したことのない未知の領域への挑戦。世界一のタワーはどのように建てられるのでしょうか?この世紀のプロジェクトに挑む大林組の技術広報担当者が、東京スカイツリーの建設について解説しました。

限られたスペースを効率よく使って資材搬入をする方法、高い場所で作業するクレーンが風の影響をどうやって軽減しているか、作業員および建設周辺地域の安全確保のための防護ネットの徹底など、建設にまつわる様々な場面でのノウハウや工夫、スカイツリーのために新たに開発した技術についてなど、他では聞くことのできない刺激的な内容でした。

会場からは、「先端のアンテナはいつどのように取り付けるのか」、「完成後は階段でも展望台へ行くことができるのか」などたくさんの質問があがりました。東京タワーの高さを超えた時期の開講でもあり、その関心の高さがうかがえました。



熱心に話を聞く受講生

◆環境社会学部開設記念「環境施設見学ツアー」

2010年、城西国際大学は環境社会学部を開設しました。そこで、紀尾井町キャンパスにほど近く、積極的に環境問題に取り組まれているホテルニューオータニにお願いして、通常であれば、非公開である主要な環境施設を見学できる「環境施設見学ツアー」を計画しました。

設備専任として45年間勤務されている山本正巳さんにより排熱や夜間電力を利用した給湯設備、屋上緑化(ローズガーデン)、厨房から出る1日1000トンの排水を浄化、中水とする中水造水プラント、食品残渣を乾燥・発酵させ、肥料を作るコンポストプラントなどを案内していただきました。見学後は、環境施設を体感できるよう食事会もセットし、都心の巨大ホテルでの取り組みを知る良い学びとなりました。



屋上緑化ローズガーデン

安房キャンパス 小惑星探査機「はやぶさ」の研究者が講演会

「サマーフェスタ2010 in安房キャンパス」の目玉企画として、日本国民に感動を与えた日本の小惑星探査機「はやぶさ」をテーマとした講演会を2010年8月1日、安房キャンパスにて開催しました。

講師に宇宙航空研究開発機構(JAXA)の吉川真准教授、そして「はやぶさ」のミッションに関わり、帰還の際に回収作業にも参加された和歌山大学宇宙科学研究所の吉住千亜紀研究員をお招きしました。

講演には、小・中学生も多くつめかけ、会場は満席となりました。講演会では、コンピューターグラフィックを使ったはやぶさや小惑星イトカワの映像と共に、はやぶさプロジェクトの概要、そして今回注目された帰還における様々なエピソードについてもわかりやすくお話していただきました。「はやぶさ」は今後、「はやぶさ2」として新たな小惑星探査機の開発が決定し、2014年度の打ち上げを目指して準備が進められます。



はやぶさ講演会

地域連携プロジェクト

第1回 ちばコラボ大賞受賞  
—九十九里地域医療夏期セミナー2010—

城西国際大学が共催した「九十九里地域医療夏期セミナー2010」が、第1回ちばコラボ大賞(千葉県知事賞)を受賞しました(NPO法人地域医療を育てる会・東金商工会議所・城西国際大学薬学部の共同受賞)。

本賞はNPO(特定非営利)法人が、企業や学校、民間団体等と連携して地域課題に取り組んでいる事例の中で、他のモデルとなるような先駆的な取り組みに対して贈られるものです。

九十九里地域医療夏期セミナー2010は、「地域医療の最前線を知る」をテーマに、全国から集まった多職種にわたる医療人や医療福祉関係の学生たちがともに九十九里地域の医療について考え、これからの薬剤師の役割や可能性について討議したものです。城西国際大学薬学部の学生21名が参加し、病院や薬局、訪問看護施設で医療に従事する方々の声を聞いてフィールドワークを行いました。今後も、学内のみならず地域社会と連携した薬学教育を実践していきます。



城西国際大学環境社会学部の取り組み  
学内ビオトープで天然メダクロメダカを繁殖—地域の子どもたちが見学に

城西国際大学の環境社会学部開設に伴い、ボランティア活動団体スターダスト・キッズ内に「環境チーム」が発足し、環境社会学科1年生と福祉総合学科2年生の総勢15名が、学内環境整備に取り組んでいます。

調整池の水を循環させたビオトープでは、放流したヒメダカ・小赤(小金魚)がすくすくと育っています。ヒメダカは環境耐性が強く、多くの稚魚が元気いっぱい泳ぎ回っています。小赤はかなり大きくなって野生化しはじめています。地元の家之子地区で、干上がりかけた用水路からメダカ、ドジョウ、ヨシノボリ、タモロコ、ハヤなどをビオトープに移し、仲間もいっぱい増えました。6月初旬に、山武市の谷津田にて入手した野生メダカ(天然クロメダカ)6匹が2週間後に産卵し、その後に孵化して100匹以上の稚魚メダカが誕生しました。近年、天然のクロメダカが減ってきていましたが、この環境社会学部の取り組みによって大学内で繁殖させることができました。

大学祭などの行事には地域の方々が大勢訪れて、子供たちがビオトープを見学し、メダカや鮎、錦鯉などを観察しています。地域の方々と連携して、小さな命を大切に育て、安全な地域環境を皆さんと共につくりあげていきたいと願っています。



ビオトープで環境を考える



元気に泳ぐクロメダカ

## 産学連携プロジェクト

### 日活と提携「映像芸術コース」を2011年4月に新設

2010年6月10日学校法人城西大学と日活は「連携協力に関する包括協定」を提携しました。その調印式が東京紀尾井町キャンパスで行われました。

これにより2011年4月、城西国際大学メディア学部の中に、映画やビデオなどデジタル映像制作のプロ育成を目指す「映像芸術コース」が新設されます。首都圏の大学では初めて制作現場である「調布・日活撮影所」を教育の場として活用します。

多くの報道陣が詰めかける中、水田宗子理事長は「大学と映画の接点ができただことは大きなステップです。日活と協力して国際的に活躍できる人材育成に努めます」とあいさつされました。日活の佐藤直樹社長は「日活は2012年に創業100周年を迎えますが、きょうは日活にとって歴史的にも意義深い日です」と述べられました。

この連携協力を記念して日活側から、1952年製造の映画撮影用の大型カメラが寄贈されました。東京紀尾井町キャンパスに展示しています。



水田理事長と佐藤社長

### 飯能信用金庫と産学連携

2010年6月8日、飯能信用金庫と城西大学が産学連携に関する包括協定の調印式を行いました。本協定は地域における産学連携活動を推進するため、相互に協力し、地域社会の発展に貢献することを目的としています。

2010年7月14日、産学連携協定締結記念として飯能信用金庫の内田哲理事長を講師にお迎えして、城西大学経済学部特別講演会が開催されました。演題は「地域金融機関としての今後の飯能信用金庫について」で、大勢の学生が内田理事長の話に聞き入りました。

城西大学は今後も地域連携に積極的に取り組み、産学連携活動を推進します。



サインを終えて

### JTB法人東京と連携協力 観光人材の育成を強化

2011年3月7日、学校法人城西大学と株式会社JTB法人東京は、連携協力に関する包括協定を締結しました。

観光産業を牽引するJTBと、千葉・鴨川に観光産業発展の期待を受けて設置された城西国際大学観光学部は、相互に人的・知的資源の交流と活用を図り、包括的な学術協力のもと、地域・大学・企業の連携により、観光産業で活躍できる有為な人材の育成を目指します。

2011年度から、観光産業の発展に資する共同プロジェクトの取り組み、JTBによる実務教育（企業事例研究、添乗実務、インターンシップ、等）と城西国際大学観光学部による観光教育との相乗効果により、観光分野に貢献できる人材育成を推進していきます。



株式会社JTB法人東京の川村益之代表取締役社長とサインを終えて握手

## 産学連携プロジェクト

### エイベックス・プランニング&デベロップメント社と提携 エンターテインメント分野の人材育成へ

2011年1月27日、学校法人城西大学は、エイベックス・グループ・ホールディングス傘下のエイベックス・プランニング&デベロップメント青木義人社長と、エンターテインメント分野における人材育成に関する包括的な連携協力協定を締結しました。

城西国際大学メディア部の映像芸術コースは映画、映像、芸能、音楽などエンターテインメント分野の人材育成を目的に、東京都千代田区をキャンパスとして2011年4月から新設されます。この提携をうけ、同コースのカリキュラムに「エイベックス・ダンスマスター」プログラムを取り入れ、エイベックスから派遣された現役ダンサーを含むダンス指導者がダンス実技の教育を行います。

子どもの「習いごと」としてダンス人気は近年高まってきましたが、2012年度からは中学校の体育教育にダンスが必須科目として取り入れられることが決まり、学校教育現場でのダンス指導者という人材需要が高まっています。教育課程を持ち、かつエンターテインメント分野で実践力となる人材教育を目標としている本学にとって、この提携は、大きな一歩となりました。

提携をうけ、水田理事長は、「世界をみる視野と確かな技術を持つ新しいエンターテインメントフィールドの人材を育成していく基盤ができました。社会に貢献できる人づくりを積極的に目指します」また、青木社長は、「今回の産学連携を機に、ダンスを通じた新しい産業づくりをさらに進め、特にアジアや欧米に通用する人材を生み出していきたい」と語りました。



エイベックス青木社長と

### 寄附講座

#### グローウェルHD・トータルヘルスケア講座 開講

城西国際大学薬学部では、調剤併設型ドラッグストアチェーンの運営を行うグローウェルホールディングス株式会社との産学連携を強化しており、2011年度より寄附講座「グローウェルHD・トータルヘルスケア講座」を開講しています。本講座では、社会環境の変化に応じた薬局・ドラッグストア業界の変遷や薬剤師の職能の拡がりについての教育や研究活動を行うとともに、グローウェルHD株式会社より現場で活躍する薬剤師を派遣いただき、OTC医薬品の販売接客、相談応需、商品選択など実践的な教育を行っています。

地域医療の過疎化が危惧されている昨今、そこで活躍できる薬剤師の育成とともにハード面での社会構造の構築は欠かすことができません。グローウェルHD株式会社は、地域社会が求める多種多様な顧客ニーズに的確かつ速やかに対応することを目的とし、調剤併設、深夜営業、カウンセリング化粧品品の積極展開という特徴のあるビジネスモデルに「介護事業」を加えたトータルヘルスケアステーションとして、地域社会に貢献する『かかりつけ薬局』の全店展開の実現を推進しています。このような企業戦略は、本学薬学部の目指す栄養、福祉、看護・介護、高齢者医療、セルフメディケーションなど幅広い分野に習熟した「地域医療に貢献する薬剤師の育成」といった教育理念と合致しており、この度の寄附講座の開講に至りました。

また、グローウェルHD株式会社より城西国際大学の薬学生を対象とした「グローウェルHD育英奨学金制度」を設立していただきました。これは地域医療への貢献に意欲を持つ学生を対象に、奨学金を給付するものです。企業との連携を活かして、充実した薬剤師教育を目指していきます。



ボランティア活動

城西国際大学学生ボランティア「スターダスト・キッズ」  
千葉県「障害者に優しい取り組みを行っている団体」に認定

城西国際大学学生ボランティア「スターダスト・キッズ」は、長年にわたって千葉県山武地区をはじめ県内で様々な福祉活動を行ってきました。福祉施設や病院を訪問して入所・入院している方たちの生活介助をしたり、地域のイベント・行事の企画・運営・補助に関わるなど、その活動は多岐・多様にわたっています。その活動が評価され、千葉県より「障害者に優しい取り組みを行っている団体」として認定証をいただきました。



千葉県では障害のある人に対して「やさしい取り組み」をしている優れた団体を表彰し、広く県民に周知することで、誰もが暮らしやすい社会の実現を目指しています。2010年度は132団体がエントリーし、その中からスターダスト・キッズを含む10団体が選ばれて認定証を授与されました。

9月に行われた授与式には福祉総合学部2年生の春日愛美さん、後藤清乃さんが出席しました。千葉県健康福祉部の戸谷部長から感想を聞かれた春日さんは「自分たちが行ってきた活動が認められてとてもうれしく思います。また、責任も感じていますので、これからはもっとしっかりボランティアの意義や役割を確認しながら活動を行ってまいります」と、喜びと決意を述べました。

ゆめ半島千葉大会(全国障害者スポーツ大会)にボランティア参加

2010年10月23日幕張メッセにて、皇太子殿下をお迎えてゆめ半島千葉大会の開催式が行われました。大会運営ボランティアとして城西国際大学の学生46名(福祉総合学部地域ボランティア研修履修学生、石田ゼミ、深沢ゼミ、フレンズ、スターダスト・キッズ)が参加しました。



大網白里アリーナ、東金アリーナにて、各県代表のバレーボール・チームに所属したボランティア学生は障害者との交流や移動のお手伝いなどの活動を行いました。24日も続けて熱戦が展開され、チームの応援に声を張り上げました。2日間にわたる早朝からのボランティア活動を、学生たちは懸命に努め、千葉県から感謝状をいただきました。

ボランティア参加学生の声

- ◆知念さき乃さん 城西国際大学福祉総合学部3年(沖縄県立コザ高等学校出身)  
開催式への参加は朝が早く大変でしたが、多くの仲間と共にボランティア活動ができてとてもいい経験でした。大網白里アリーナでのバレーボール大会、聴覚障害・沖縄チームのサポートをしました。沖縄出身の私は熱くなって応援し、全国3位という結果を選手団と共に喜びました。
- ◆嶺井八弥さん 城西国際大学福祉総合学部4年(沖縄県立向陽高等学校出身)  
大会の準備から手伝いを始めました。本学のボランティア学生たちのユニフォームの名前や応援旗県名の記入など、多くの作業を4年生ゼミのメンバーで行いました。東金アリーナでのバレーボール大会、思いやりを大切に福祉実習の経験を生かしながら手伝い応援しました。後日、千葉県知事からの各学生氏名入りの感謝状・記念品をいただき、記憶に残るボランティアでした。

健康で豊かな人生のために(健康推進)

城西大学薬学部医療栄養学科制作 安心安全「いちごジャム」

城西大学薬学部医療栄養学科(管理栄養士養成課程)2年生の食品加工に関する実習で製造しているのと同じレシピで作ったいちごジャムの配布・販売を開始しました。



実習では、糖質の作用で「水分活性」(微生物が利用できる水分)を下げて保存性を向上させることや、果物に含まれるペクチン(食物繊維の一種)の作用で固まる「ゲル化」(液体と固体の中間の性質)がおこること、殺菌方法などを学びます。さらに、加工食品に必要な食品衛生法、健康増進法、JAS法などの法律的な観点や、商品としての付加価値があがるようなラベル・表示を考えます。医療栄養学科1年次では、食品分析に関する実習で、栄養成分の分析を行ない、熱量(カロリー)の算出や機能性食品成分として注目されているポリフェノール含量の求め方も学びます。いちごジャムの製造では、実習で学んだ管理栄養士に求められるスキルを生かしています。

いちごジャム  
現在、このいちごジャムは城西大学内の売店で販売して好評を得ています。

健康づくり水中リハビリ運動教室開催

城西大学は、坂戸市との共同プロジェクトとして、高齢者及び身体障害者の運動機能の回復等を目的とした「健康づくり水中リハビリ運動教室」を開催しています。坂戸市健康増進施設内の温水プールで行われる教室では、城西短期大学渋谷二男教授が効果分析を行い、水野加寿水泳部監督の指導のもと、参加者が楽しくリハビリトレーニングに励んでいます。



教室の前には、必ず水野監督の講義とその日の受講者の体調を知るためにカウンセリングが行われ、生活習慣病を持っているグループ・腰痛などのグループ・身体障害者のグループに分かれて運動を行います。参加者アンケートでは、5回の受講を終えた時点で22.6%の方が「体調が良くなった」と答えており、短期間ながら具体的な効果が示される結果となっています。また、全員が教室への継続参加を希望しており、市民からの問い合わせも多数あって、水中運動に対するニーズの高さを感じています。

薬物乱用防止キャンペーンに城西大学薬学部学生が参加

埼玉県では、近年増加している10代、20代の若者の薬物乱用を防止するため、2010年11月1日から「やくよけコバトンNeT事業」を展開しています。



2011年2月3日に行われた、薬物乱用防止キャンペーンに、薬学部学生が参加しました。このイベントは、埼玉県保健医療部薬務課、埼玉県警察本部、埼玉県のマスコット「コバトン」、そして埼玉県警のマスコット「ポップくん」が協働して、薬物乱用防止の啓蒙活動の一つとして実施したものです。当日は、やくよけ豆の配布、やくよけコバトンNeTカードの配布やパネルに貼ったポスターを持って薬物乱用防止の呼びかけを行いました。

携帯から「やくよけコバトンNeT」をダウンロード

健康で豊かな人生のために(健康推進)

城西大学医療栄養学科3年 食毒性学研究室チーム

透析を受けている方のための

バイエル・レシピコンテスト教育部門で準グランプリ獲得

2010年3月13日、透析を受けている方のためのレシピコンテスト「第2回バイエル・レシピコンテスト」で医療栄養学科3年生の食毒性学研究室チーム(11名)の応募した作品が見事に準グランプリに輝きました。「臨床栄養学実習II」で約3週間にわたり、血液透析について勉強をするのと同時進行で、学生が考え、試作を重ねて応募したものです。

コンテストのテーマは、透析患者様向けの「持ち運びができるお花見弁当」で、栄養量の設定や試作を重ねて応募しました。教育部門の応募作品は42作品で、医師・患者会代表・管理栄養士からなる選考委員で審査した結果、グランプリの該当作品はなく、準グランプリ2作品、佳作1作品が受賞作品に選出されました。

準グランプリを獲得した城西大学のレシピは、コールスロー(サラダ巻き)・肉巻き(菜の花とかぼちゃ)・鮭と豆腐のふわふわ揚げ・たけのことこんにゃくの煮物・紅白白玉だんごです。

コンテストに参加した学生は、「透析の大変さや工夫の仕方、患者さんの辛さがよくわかりました。これからも勉強に力を入れて頑張りたい」と受賞の喜びとともに、学びへの意欲がさらにわいたようです。



受賞したお花見弁当



授賞式にて

城西健康市民大学講座

オリンピックメダリスト朝原宣治さんを招いて

『運動会で一等賞を目指そう!』を開催

城西健康市民大学主催の小学生向けの陸上教室『運動会で一等賞を目指そう!』では、今回、日本の陸上短距離界を長年けん引してきた、北京オリンピック400mリレー銅メダリストの朝原宣治さんをゲストに招いて、2010年9月4日に開催しました。参加者は近隣の小学生で200名を超え、保護者も含めると500名近い人たちが集まり、大盛況でした。

はじめにビデオで朝原さんの雄姿を見た子どもたちからは、自然と拍手がわきあがり、目の前にその朝原さんがいることを喜んでいました。朝原さんからは、小学生時代に外で遊んだ話、中学では全国屈指のハンドボール部に所属して頑張った話、オリンピックでの話などをうかがいました。質問コーナーでは、スポーツに一生懸命取り組んでいる子どもたちや御父母からの質問がたくさんありました。

その後、外に移動してかけて教室を行いました。朝原さんは実際にお手本を見せながら、子どもたちに指導をしました。一流の陸上選手と一緒にスキップしたり、走ったりした子どもたちは、朝原さんを囲んでとても楽しそうでした。

これからも城西健康市民大学では、地域の皆さんに喜んでもらえるよう、教室を続けていきます。



朝原さんがかけこの指導

健康で豊かな人生のために(健康推進)

城西大学発 コスメティック 2種

JU45アクアルチア

城西大学では、創立45周年を記念して、基礎化粧品セット「JU45アクアルチア」を開発しました。

アクアルチアの由来はキャンパスを流れる高麗川の水(アクア)とけやきに降り注ぐ光(ルチア)にあります。この化粧品セットにはローション、乳液および洗顔フォームと化粧ポーチが入っています。

この化粧品には2つの大きな特徴があります。1つは、角層の健康に欠かせないセラミドを肌の中で合成するスフィンゴミエリンという脂質が入っていることです。脂質は水が大部分を占めるローションにとかしてむことができませんが、リンポームという形状にするという画期的なアイデアによりスフィンゴミエリンをローションに含有させることができました。2つめは、地元坂戸市の葉酸プロジェクトと連携し、成分の1つに葉酸を入れたことです。薬学部で評価したところ、城西大学が開発した「JU45アクアルチア」化粧品から、葉酸の著しく高い皮膚浸透性が得られることがわかりました。葉酸は肌をまもる、催奇形性の危険性を下げるなど、数々の効能があります。妊婦さんにもオススメの化粧品になります。すでに、「JU45アクアルチア」は多くの方々から好評が得られており、朝起きた時の感じがよくなった、しっとり感が素晴らしいなどといわれています。

薬学部では「化粧品・化粧品学演習」で、「JU45アクアルチア」を教材にして化粧品開発コンセプトや容器デザインを考えてもらっています。学生からは、自分のアイデアに様々な新しい視点加わり、毎回新しい発見に出会えると非常に好評です。また、「薬科学科実習」ではローションや乳液の調製を行っており、講義で学んだ知識を実習で実践することにより知識定着度の向上がうかがえます。



スキンケアセット

JU50ハンガリアンコスメケーキ

城西大学では、基礎化粧品「JU45アクアルチア」に続いて、新たに洗顔石鹸「JU50ハンガリアンコスメケーキ」を販売します。固形の洗顔石鹸である「JU50ハンガリアンコスメケーキ」は、数種のハーブオイルを含有したハンガリアンウォーターソープであり、日常の洗顔はもちろん、体や手を洗うためにも使用できます。ハンガリアンウォーターは、血行改善、収斂、抗酸化作用などを有すローズマリーなどのハーブエキスが含まれており、香水や治療薬としてもヨーロッパ各地で使用されてきました。こんないわれがあります。時は14世紀です。年老いたハンガリー王妃がハンガリアンウォーターを愛用しはじめるとみるみる若さを取り戻し、20代半ばの隣国ポーランドの王子から求婚されたというのです。一般に、固形洗顔石鹸は液状ソープより皮膚刺激性が低いため、肌に気を使う方々に高い人気があります。また、配合したオイルの種類により、石鹸の色を青、黄、オレンジなどに変えられ、アソートにしてプレゼント用としても喜ばれるものを作ることができます。

固形石鹸の販売による教育的効果についても考えています。固形石鹸の製造方法を学ぶことにより、石鹸を構成している脂肪酸の種類により石鹸の形状(固形、粉状、液状)が変化すること、脂肪酸の有する界面活性作用が、医薬品、食品、化粧品などといかに深く関わっているかを学ぶことができます。また、薬科学科実習や化粧品・化粧品学演習では、実際に固形石鹸を作成し、ものづくりの大切さ、大変さを学ぶことができます。さらに、「JU50ハンガリアンコスメケーキ」のコンセプトやデザインを考えることで、企画開発力やマーケティング力の醸成にも努めていきます。



JU50ハンガリアンコスメケーキ

ハンガリーとの交流(次世代育成・グローバル教育)

ショーヨム・ラスロー大統領閣下訪問記念  
水田宗子ハンガリー奨学生表彰式

水田宗子ハンガリー奨学金は、2009年12月ハンガリー共和国大統領であるショーヨム・ラスロー大統領閣下(当時)が、紀尾井町キャンパスを表彰訪問されたことを記念し、ハンガリーと日本の架け橋となる人材育成を目的とした、ハンガリー学生の留学費用を助成した奨学金制度です。

◎城西大学 2名: エトヴェシュ・ロラード大学 女性1名  
セントイシュトバーン大学 男性1名

◎城西国際大学 4名: ブダペスト商科大学 女性1名  
エトヴェシュ・ロラード大学 女性3名 ハンガリー奨学生



2010年度はこの奨学金制度によって、初めての留学生を迎えました。2010年10月7日に「水田宗子ハンガリー奨学生表彰式」が、東京・紀尾井町キャンパスで行われました。

ブダペスト商科大学、セントイシュトバーン大学、エトヴェシュ・ロラード大学の奨学生6人が出席する中、水田宗子理事長は「皆さんが日本に留学したことを心からお喜び申し上げます。実際に生活してみると、外から見た日本と違う面があることに気付くでしょう。若いうちに、そうした体験をすることは大変良いことです。国境を超えた人間になり、ハンガリーと日本の架け橋になってください」と挨拶しました。

奨学生を代表して、パトコー・アーグネシュ・アンナさん(城西国際大学観光学部)が「1年間、観光学部に学ぶことになりました。ありがとうございます。日本語をもっと勉強し、観光について学び、両国の交流促進のために何かできるようにになりたいと考えています。また、日本語教師になりたいという夢も持っていますので、実現できるように頑張ります」と日本語でお礼の言葉を述べました。

ハンガリー大使館主催  
城西大学・城西国際大学ハンガリー留学生歓迎会

学校法人城西大学へハンガリーから「水田宗子ハンガリー奨学金」による学生が入学したことをうけ、ハンガリー大使館が、2010年10月7日に、留学生歓迎会を開催してくださいました。

城西大学から5名、城西国際大学から12名のハンガリー留学生が招待され、また、ハンガリーに留学経験のある日本人学生および、ハンガリー語を学習している学生も両大学から4名ずつ招待されました。



ボハール・エルヌー ハンガリー特命全権大使、ボジク・ベーラ 歓迎会の様子

副大使、アルベルト・ヤーノシュ領事の他、多くの大使館関係者が歓迎会に参加いただき、ハンガリー料理が振舞われる中で交流しました。ボハール大使は、このように活発な若い人々と交流ができるようになったのも水田理事長のリーダーシップと理解のおかげですと謝辞を述べ、城西大学で勉強することで、将来、ハンガリーと日本の交流の架け橋として活躍できる人材になってほしいとあいさつし、学生一人一人と親しく話しながら、激励していました。また、水田宗子理事長から、このような場を学生たちのために設けてくださったお礼とこれを契機にさらに幅広くハンガリーとの交流をはかっていきたいとあいさつがなされました。

そして、この奨学金スタートの記念として民芸品『川越まつり山車』をボハール大使に贈呈し、また、現在ハンガリー語を勉強中の城西国際大学国際人文学部国際交流学科4年渡久山南葵さんが沖縄民謡を演奏するなど、終始賑やかな中で、歓迎会が行われました。

ハンガリーとの交流(次世代育成・グローバル教育)

日本とハンガリーの架け橋に  
城西・ハンガリー学生親善交流大使

2010年度、ハンガリーからはじめて迎えた留学生にハンガリーと日本の架け橋になってほしいという願いを込めて、城西大学と城西国際大学のハンガリー人留学生からそれぞれ1名ずつ「城西・ハンガリー学生親善交流大使」を任命しました。

最初の親善交流大使となったのは、城西大学経営学部ティマール・シャーンドルさんと城西国際大学観光学部パーパ・アレクサンドラさんです。城西国際大学観光学部でのウェルネス交流DAYで、ハンガリーの民族舞踊の披露や物産展、ハンガリー伝統料理の販売を行うなど、日本人学生はもちろん地域の方々に、ハンガリーという国を知ってもらうように活動を続けています。



ハンガリー学生親善交流大使パーパ・アレクサンドラさん(右)とティマール・シャーンドルさん(左)

ハンガリー共和国特命全権大使ボハール・エルヌー閣下を迎えて  
JUFフェスティバルでハンガリー展

2010年10月30日から11月1日までの3日間に渡り、「第19回JUFフェスティバル」が開催されました。

開祭式では、2009年に設立した水田ハンガリー奨学金により留学生を初めて迎えたこともあり、ハンガリー共和国特命全権大使ボハール・エルヌー閣下にスピーチをいただきました。大使は、国際交流の意義、様々な国籍の学生たちと学ぶことの大切さを学生に向かってお話くださいました。また、日本とハンガリーの交流における城西大学・城西国際大学の役割についてもお話され、大学への期待を感じました。

大学祭では、ハンガリー留学生とハンガリー語を学んでいる日本人学生とで「ハンガリー展」を行っており、大使が見学されました。ハンガリー偉人紹介のパネル、民族衣装の展示の他、ハンガリー映画紹介コーナー、子ども用絵本コーナーが設けられた展示室を、大使は多くの学生たちとお話されながら、一つ一つご覧になられました。



ボハール大使講演



ハンガリーを紹介したコーナー

ハンガリー・日本友好議員連盟副会長  
マールトン議員が来学

2010年12月17日、マールトン・アッティラ ハンガリー・日本友好議員連盟副会長が東京紀尾井町キャンパスを訪問し、学生たちと交流しました。これは、本学においてハンガリー語を学習している学生数が約250名と首都圏で突出して多いことからマールトン議員が、学生と直接話したいと熱望されての来訪です。

マールトン議員は「大統領がいらした日本の大学にわたしも訪問できて光栄です。日本とハンガリーの経済・文化の関係強化、そして人的関係の強化がわたしの職務です。きょうは学生との交流が楽しみです」とあいさつされました。

このあとマールトン議員は、本学城西・ハンガリー学生親善交流大使であるティマール・シャーンドルさんとパーパ・アレクサンドラさんの案内で、キャンパスを見学しました。その後、地下ホールで、ハンガリーからの交換留学生9名、そしてハンガリー語を履修している城西大学、城西国際大学の学生と交流されました。マールトン議員は学生らに「ハンガリーの歴史上の人物でだれを知っていますか」などと問いかけました。学生のハンガリー語による質問に非常に発音がいいですねと感想を述べつつ、丁寧に一つ一つ答えておられました。



学生たちの質問をうけるマールトン議員

中国・大連との交流(次世代育成・グローバル教育)

日中連携博士課程がスタート

学校法人城西大学は、大連理工大学・大連外国語大学・東北大学の中国3大学と連携して博士課程を開設しました。

2010年5月28日、中国・大連理工大学で開式典が開催されました。日本国総領事館大連出張駐在官事務所長の遠山茂氏をはじめ、来賓、教員、学生たち約120名が参加しました。水田宗子理事長よりすべての学生に入学許可書が手渡され、学生たちは緊張のおももちで受け取りました。

8月23日から31日までは、第一期生19人を大連から迎えて紀尾井町キャンパスで集中講義が行われました。日本文学、比較文学研究についての講義、博士論文執筆に向けた個別の研究指導に加え、来日の機会を生かした資料収集のために国立国会図書館への引率と指導、また日本文化に親しくふれる目的で東京国立博物館を見学しました。最終日にはキャンパスの食堂で懇親会が開かれ、水田宗子理事長をはじめ博士課程の指導にあたる教員たちとの交流を深めました。

受講生を代表して大連理工大学の孟慶栄助教授ら3人が「すばらしい集中講義で、城西国際大学に来られて本当に感謝しています。授業は、レベルが高く大変充実していて、受講期間中は資料を調べる時間がないほど忙しかったのですが、満ち足りた思いでいっぱいです。また大連に帰っても気をひきしめてがんばります」と感想を述べました。



大連にて開式典



紀尾井町キャンパスでの集中講義

大連市より城西国際大学へ福祉人材育成奨学金が設置 就職先の支援まで

日本と同様に急激な高齢化がすすむ中国大連市において、福祉人材の育成が急務であることをうけ、このたび、すでに長く交流があり、また、福祉総合学部で福祉マネジメントのできる学生を育成している城西国際大学福祉総合学部での人材育成へ協力するために「大連・城西福祉人材育成奨学金」が開設されました。

これは、大連市において選抜した10名の学生に、奨学金を与え、勉学を終え帰国したときには、就職先も斡旋するというものです。就職が大変困難な中国において、就職先を市が保障するかわりにすばらしい人材を育成してほしいという強い願いがこの奨学金に込められています。

この大連市の熱意にこたえられるよう城西国際大学では、高度な福祉人材育成を志しています。

学校法人城西大学大連事務所を開設

2010年5月28日、学校法人城西大学の事務所が大連理工大学外国語学院3階に開設されました。除幕式が行われ、事務所入り口に掲げられた看板の幕が取り外されると「学校法人城西大学大連オフィス 日中短詩協会 日中連携博士コース」の文字が浮かびあがりました。

開所式では、水田宗子理事長から「大学のパンフレットやキャンパスのパネルも飾られ、研究、教育の立派な舞台装置ができました。サテライトを活用しながら良い学びの場にしていきたいと思います。このあと水田理事長は、城西国際大学東金キャンパスで待機していた柳澤伯夫学長、大学院人文科学研究科長である三木紀人教授らとサテライトを通じて事務所開設を祝いました。

また、水田理事長はこの大連事務所の開設ならびに日中連携大学院開設にあたって、ご尽力いただいた元大連理工大学党委書記の林安西大連高級経理学院長と会談しました。



大連事務所にて

韓国・釜山との交流(次世代育成・グローバル教育)

水田宗子理事長が韓国・東西大学校より名誉博士学位を授与

2010年9月29日、学校法人城西大学水田宗子理事長が、韓国固有数の私立大学であり、長年の姉妹校である釜山の東西大学校(総長朴東順先生)より、名誉経営学博士号を授与されました。これは、水田理事長の学問上の業績、教育における業績、大学運営に際し卓越した指導力を発揮した業績、そして東西大学校との交流に大きな功績を残したことが評価されたものです。

東西大学校New Millennium館 2階小郷アートホールでは、学生800人が集う中、水田宗子理事長による「グローバル時代 授与式にての人材像—テクノロジーが拓く「未来」に生きる若者たちへ」というテーマで名誉博士記授与記念・特別講演がなされました。みずからの体験を織り交ぜた講演は、次世代を担う学生たちにとって大変示唆に富んだものでした。地元からの関心も高く、地元の有力紙(釜山日報)の取材を受け、翌日記事が大きく掲載されました。



この名誉博士号授与を記念して、学校法人城西大学より、両大学の新たな交流促進ならびに日韓共同研究の可能性を拓くため、①2+2共同教育プログラム(デュアル・ディグリー制度)において、大学生4名大学院生1名分の奨学金の授与②両大学での共同映画制作プログラム製作費③日韓シンポジウム「韓国及び日本における日流・韓流文化について」開催に関するの運営開催及び出版費を目録として贈呈しました。今後の活発な両校の交流が期待されます。



共同プログラム調印式

韓国・東西大学校曹増成先生 特別講演「サービス産業と国家競争力」

2010年12月14日、韓国・釜山の東西大学校の曹増成大学院長をお招きして、城西大学清光ホールで「サービス産業と国家競争力」と題して特別講演を行いました。

現在、成長エンジンとしての製造業が限界を見せ、新成長産業の発掘が切実に求められている中、Apple社の成功に見られるように、サービス産業が新しい成長主導産業として注目されています。曹先生は、国家競争力としてサービス産業が期待される中で、教育界が企業や地方自治体と共同して新しい産業分野について研究することが必要だと述べました。また、東西大学校では、サービス革新デザイン研究所と大学院にサービスデザイン科を設置し、教育の場から研究を通じて、サービス産業の生産性と効率性を高めることでサービス産業の発展に寄与しようと取り組んでいることが紹介されました。

この模様はサテライトで韓国・東西大学校、紀尾井町キャンパス、城西国際大学東金キャンパス・安房キャンパスにつなぐられ、両国の学生たちは熱心に聞き入っていました。講義の最後には韓国・東西大学校の学生との質疑応答もあり、両校の学生たちが交流することができました。



曹増成先生講演 韓国・東西大学校と結んで

学会・シンポジウムの開催(次世代育成・グローバル教育)

ヤングチャレンジ  
日韓社会的企業フォーラム開催

2010年11月19日、東京紀尾井町キャンパス地下ホールで『ヤングチャレンジ 日韓社会的企業フォーラム』が行われました。独立行政法人国際交流基金の日韓社会的交流事業の一環として行われ、JICPASおよび城西国際大学大学院国際アドミニストレーション専攻も協力という形で参加しました。社会的企業を立ち上げた韓国の若者10名を迎え、日本の若者との対話を通じて、社会の課題に対して国境を越えて考えるプログラムで、日本・韓国の大学生および一般来場客が多く参加され、第1部、第2部共に充実した内容となりました。



第1部:左から鈴木崇弘先生、松田公太議員、武藤清氏

第1部では、日韓の若者に向けたパネルディスカッション「ソーシャルイノベーションと起業家精神:ビジネスとパブリックの両眼」が行われ、企業再生機構執行役員である武藤清氏、タリーズコーヒージャパン創設者で国会議員の松田公太議員がパネラーを、城西国際大学大学院アドミニストレーション専攻鈴木崇弘客員教授がコーディネーターを担当し、それぞれの立場から示唆にとんだ話がありました。現代の日韓に共通することとして、次代を担う若者たちに対し、早くからマイクロマクロの視点で、経済への理解と分析能力を学ぶための教育が必要である点において、皆さんの意見が一致しました。

第2部では、「韓国若手起業家の挑戦」と題して、韓国社会における若者の支援と可能性について学生3名が発表を行いました。また、若者就労支援団体「育て上げネット」工藤啓理事が発表に対するコメントと「育て上げネット」の活動発表を行い、最後に日本と韓国が今後も協力し合い、若い学生の時期から交流し、いろいろな問題を共に考えていく場を増やす事が大切であるとまとめられました。

今回は、企業を目指す学生たちにとって、成功モデルとしてあこがれの松田氏の参加もあり、食い入るように聞き入っていた参加者が多く、非常にインパクトのある実際的なフォーラムとなりました。

城西国際大学環境社会学部の開設記念  
第4回エコビレッジ国際会議TOKYO

城西国際大学環境社会学部の開設にあたり、紀尾井町キャンパスにおいて、『第4回エコビレッジ国際会議TOKYO』を開催しました。

これは、環境負荷が少なく、支え合うコミュニティづくりを取り入れた住まい方として世界中に広がりを見せている「エコビレッジ」を、世界の事例から学び、また国内の取り組みを共有する会議です。



今回は『地球とつながるリローカライゼーション～都市の再生と農村のエコビレッジ化～』をテーマに、約10のパネルディスカッション、30を超えるレクチャーが行われました。海外からは、都市デザインやプランニングを提案する李京生氏(中国・同済大学建築都市計画学院教授)や、環境教育に携わるペネロペ・レイエス氏(グローバル・エコビレッジ・ネットワーク・オセアニア&アジア代表)が来日されました。当日は、世界各国から延べ1000人が来場し、国際色豊かな発信の場となりました。

環境社会学部からは、鈴木弘孝教授が、「都市緑化とまちづくり」と題して、緑や花を用いたまちづくりについて、ご自身が行政で公園緑地行政を担った経験を交えて講演しました。また、メディア学部からは小淵究教授による「エコとメディアによる地域づくり～大学のプロジェクト教育を通じて～」の講演を行いました。

学会・シンポジウムの開催(次世代育成・グローバル教育)

メディア学部映像芸術コース設立記念  
篠田正浩監督・吉増剛造先生の対談

学校法人城西大学創立45周年、メディア学部映像芸術コース設立を記念し、メディア学部映像講座を、2011年1月22日東京紀尾井町キャンパスで開催しました。篠田正浩監督を招いての対談は5回目を迎え、第一部は篠田監督の映画『瀬戸内少年野球団』を上映、第二部は『一・日米戦争一戦後はこうしてはじまった』をテーマに映画監督の篠田正浩客員教授と詩人の吉増剛造客員教授の対談が行われました。



篠田監督と吉増先生の対談

篠田監督からは、「天皇の赤子」から「マッカーサー・チルドレン」と時代の変化の中で変貌させられた少年たちの姿を、瀬戸内で滅びる平家物語になぞらえたことが語られました。軍国少年にとって英語の教科書で「I am an American boy」と唱和させられる屈辱は大きく、少年たちにとっては、「終戦後体験」は、まさに『日米戦争』の始まりだったのです。

また城西国際大学国際人文学部客員教授である吉増剛造先生からは、日本文化が滅亡させられてゆく様子を平家物語にたとえた篠田監督の構想がすばらしく、また、政治の文脈の中でたたかき生き続ける文化の力を感じられる点、この映画の魅力であると語られました。

参加者は終戦後体験のあるシニア世代も多く、「切ない思いでこの映画を見ました」「混迷する今の日本で再び問題提起ができる映画でした」「政治と文化の問題を深いところで考えさせてくれた対談だった」といった意見が寄せられました。

日韓共同映画制作プロジェクトスタート

韓国・東西大学校から、学校法人城西大学水田宗子理事長への名誉博士号授与を記念して、学校法人城西大学より、両大学での共同映画制作プログラム製作費を贈呈しました。

そこで、両大学で協議をしながら、共同映像制作の作品制作にあたって、2国間の文化や歴史を踏まえつつ、「New Generations of Asia」をテーマに、若い世代が前向きに同じアジアの仲間としてコラボレーションしていくことを目指します。実際の撮影場所は、韓国から学生が訪日しロケハンしてから決まる予定ですが、この共同映画制作が地域起こしにつながるよう考えており、地域を巻き込んだ取り組みが望ましいと考えます。



RED ONE 4K カメラシステム

また、ブルジョウ次郎先生が制作し、本学理事長への名誉博士号授与記念パーティにおいて、東西大学校にプレゼントした曲が、映像の中で使用される予定です。

今回の映画制作で特徴的なことは、撮影フォーマットとして、フルハイビジョンの高画質の映像をカードメディアやハードディスクに収録する、ファイルベースの映像制作のワークフローを想定しています。「RED ONE 4Kカメラシステム」をはじめとする超高解像度テープレスワークフローのデジタル映画制作は、今後映画制作の主流をなす方式で、こうした最新の映像機器を使って映像制作することで、学生は新時代のデジタルテクノロジーを修得する機会が得られます。若い感性に基づく、共同映画がどのようなものになるのか今から楽しみです。

同窓生との連携(次世代育成・グローバル教育)

城西大学同窓会40周年記念式典開催

2010年10月10日、城西大学同窓会創立40周年記念式典・祝賀会が盛大に開催されました。坂戸市の伊利仁市長など多くの来賓の方々が出席のもと、同窓生ら約500名が集まり、懐かしい対面となりました。

清光ホールで行われた記念式典では、佐藤鉄也同窓会長が「本日、創立40周年の式典が挙げていくことは、同窓生約7万名にとりまして、心からの喜びでありますとともに、光栄の極みです。今後もこのような会に積極的に参加して、情報交換をしてもらいたい」と話されました。佐藤会長へは、城西・ハンガリー学生親善交流大使からお祝いの花束が手渡されました。式典の最後には同窓生総勢500名で学歌斉唱をし、清光ホールに大きく響き渡る歌声に、同窓生の連帯の力強さを感じました。

式典に引き続いて総合体育館では、祝賀会が賑やかに開催されました。会場では、武蔵越生高等学校の太鼓部の生徒が演奏をして迎えてくれました。アリーナの入口に「城西大学同窓会創立40周年記念—40年のあゆみ」と題された大きな写真展示パネルが設置され、年代ごとに分けられた写真を見た同窓生たちからは懐かしいと声があがりました。

会場には様々な模擬店が並び、城西国際大学からは学生デュオLOFTがお祝いにつけ、祝賀会を盛り上げました。

記念品として配られた40周年記念誌は、学生時代の自分や友人の姿をみつけようと熱心に見入る人が多く、写真で当時を振り返って、いっそう懐かしさが増したようです。



同窓会40周年式典



40年のあゆみを写真パネルで

グローバルユース・インターナショナル子どもクリスマスパーティ

留学経験のある卒業生が組織するグローバルユースと城西国際大学福祉総合学部子ども福祉コースが共催して開催しているのが、グローバルユース・インターナショナル子どもクリスマスパーティです。2008年に第1回を開催し、毎年12月に開催する定例の行事となりました。毎回大学近隣の保育所に通う子どもたちを招待して、留学生・学部生と共に楽しんでもらう企画になっています。

2010年は12月22日に、東金市と山武市の保育園児たち約40名が参加しました。

実習を経験した子ども福祉コースの3・4年次生が中心となって、子どもたちに楽しんでもらえるように企画と準備をしてパーティを作り上げます。手遊びや影絵、ハンドベル演奏をしてクリスマスの楽しい時間を過ごします。また、今年にはハンガリーから初めて迎えた留学生がパーティに参加してハンガリーのクリスマスソングを披露しました。

これまでに参加した留学生はノルウェーをはじめ、中国、韓国、ハンガリーと多岐に亘り、国際大学ならではのクリスマスパーティになっています。子どもたちが音楽や遊びを楽しみ、留学生を通じて外国文化に触れられると好評で、地域から開催を期待されるパーティとなっています。



インターナショナルクリスマス

文化・出版を通しての貢献(次世代育成・グローバル教育)

International Poetry Reading  
詩人ジェローム・ローゼンバーグ氏を迎えて

2010年3月26日、東京紀尾井町キャンパスにおいて、学校法人城西大学国際学術文化振興センターならびに同人誌『カリヨン通り』共催により、日本を訪問中のジェローム・ローゼンバーグ氏をお招きし、詩の話と朗読会を開催しました。

ジェローム・ローゼンバーグ氏は、北米先住民の歌を英語に翻訳した民俗学者でもあり、また、現代アメリカを代表する詩人でもあります。対談者として、ローゼンバーグ氏の古い友人で、城西国際大学の客員教授吉増剛造先生、詩人の白石かずこさんがいらしてくれました。そして受講者として、詩人佐川亜紀さんをはじめ、詩の編集者、城西国際大学の人文学部の先生方、詩を研究テーマにしている大学院生など全部で20名ほどが参加しました。

3人の高名な詩人による鼎談により、ケネス・レクスロスからはじまったアメリカ現代詩の歴史、そしてローゼンバーグ氏が手がけたアメリカ・インディアンの歌を英訳した仕事とその後のアメリカの詩の世界に大きなインパクトを与えたこと、また、ローゼンバーグ氏が考える、詩をパフォーマンスの場としてとらえ、その場において何か立ち上がってくるのを参加者が感じることの重要性が3人の共感をもって語られました。

ローゼンバーグ氏は、実際に「けもの」の詩を詠唱し、その場にいあわせた皆は、違うメロディーで幾度も繰り返される「けもの」の言葉に、そこに草原が広がり、けものたちが走っているような幻を見る思いがし、場の大切さを体験することができました。最後に白石氏による自作の詩「ちいさな惑星」の朗読、引き続き、アレン・ギンズバーグ氏による英訳された「Little Planet」をローゼンバーグ氏が朗読し、大きな盛り上がりの中、終了しました。



腕をまわしながら「けもの」を詠唱

大連四行連詩メンバー座談会  
連詩の魅力とこれから—大連にて—

2010年5月28日、大連理工大学から杜鳳剛先生、大連外国語学院から陳岩先生、劉利國先生、本学水田宗子理事長、村井隆顧問とカリヨン通りメンバーで、「連詩の魅力とこれから」をテーマに座談会を行いました。本学では、ご出席の大連の大学と「日中短詩協会」を設立し、詩歌による交流を活動の目標としています。

「カリヨン通り」発刊を記念して、これまで中国ではまったく紹介されたことのない「四行連詩」という詩型による詩を中国大連と日本をつないで、3回行ってきました。一人で四行の詩を書き、次の人は、前の詩から一つの語をとってつなげていくというルールのもと、国境を越えて詩を紡いでいく試みは、非常に強く両国のメンバーの心をとらえました。

座談会の中では、中国側から、私たちのような外国人は、いくらでも日本語は外国語で、どこまでそれを理解できるかが大きな悩みでもありますとの話がありました。加えて、連詩の魅力、それぞれがいかにして作詩をしてもらえるか、そして、大連四行連詩に独特な日本と中国のこと、翻訳のことなどさまざまに楽しいお話ができました。

新しい日中の1つの文学ジャンルの近未来として、あらたなものを作りあげたいという気持ちがみなさんの中に生まれました。少しずつ積み重ねながら、もう少しまとまったら本にして、もっと世界に発信していけるようにと参加者の希望が語られました。



カリヨン通り 座談会

文化・出版を通しての貢献(次世代育成・グローバル教育)

U.S.-JAPAN WOMEN'S JOURNAL (日米女性ジャーナル) / Review of Japanese Culture and Society 出版活動

日米女性ジャーナルは1988年、日米間を中心に他地域を加えたグローバルな視点に立ったジェンダー研究の学術交流、情報交換を目的として創刊されました。以来、女性問題、男性問題、家族、労働、社会問題、文化研究等、幅広い分野をカバーし、学術論文、時事問題、インタビュー、資料等を掲載しています。これは英語で発行されており、日本のジェンダー研究・情報の海外への紹介、海外での日本研究の普及、日米比較研究の奨励を目的としています。

同じくReview of Japanese Culture and Societyも1986年から英語で発行されており、この2つの英文誌は、海外へ日本の文化・研究を紹介するのに大きな役割を果たしています。

JICPAS publishes two kinds of English language journals, U.S.-Japan Women's Journal and the Review of Japanese Culture and Society. The U.S.-Japan Women's Journal aims to exchange scholarship on women and gender between the U.S., Japan and other countries while the Review of Japanese Culture and Society is devoted to the scholarly examination of Japanese art, literature, and society. Both journals welcome contributions from experts on Japan.



- ◆ U.S.-Japan Women's Journal <http://www.josai.jp/jicpas/usjwj/index.html>
- ◆ Review of Japanese Culture and Society <http://www.josairjcs.com/>

吉増剛造賞 第2回高校生小論文コンテスト 「私の異文化体験」

第2回となる高校生小論文コンテストは、「私の異文化体験」をテーマに掲げました。外国と日本、都市と地方、両親の世代と高校生、さまざまな異文化を自分に引き寄せて考えた342篇の応募がありました。そのなかから最優秀賞1名、優秀賞受賞者2名、佳作4名を選考しました。

最優秀賞は新潟県立長岡高等学校1年鈴木里奈さんが弟の自閉症を異文化ととらえた「自閉症と異文化体験」に決定しました。鈴木さんは、受賞者を代表して、「自閉症の弟の感受性は独特のものです。身体の障害に対するバリアフリーは広がっているけれど、眼に見えない障害に対する『心のバリアフリー』はまだまで、そうしたことに気づかせてくれた弟に感謝しています」と、小論文を書くにいたった思いと受賞の喜びを述べました。

審査委員長の吉増剛造先生は、小論文はどれも、書いている自分のなかに異なる自分がいて、違う手が動きだしていくような「書く手の小さな声」を聞いて書かれたそれぞれに独特なすばらしい文章であったと講評されました。



コンテスト入賞作品

- 最優秀賞 「自閉症と異文化体験」 鈴木 里奈さん(新潟県立長岡高等学校)
- 優秀賞 「メルヘンの国ドイツを訪れて」 藤井 麻未さん(大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎)
- 「私の異文化体験」 メッリーノ アンドレア 朗以さん(帝京高等学校)
- 佳作 「感謝の言葉『いただきます』『ごちそうさま』」 五十嵐 衣さん(新潟県立長岡高等学校)
- 「異文化から学びあう社会」 閻 迪さん(千葉県立浦安高等学校)
- 「芦生の森から」 尾澤 ちづるさん(大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎)
- 「異文化を超えて」 坂田 大知さん(千葉県立成田国際高等学校)



入賞作品集

文化・出版を通しての貢献(次世代育成・グローバル教育)

2010年度水田美術館の展覧会・講演会

水田美術館における2010年度の活動をご紹介します。学校法人城西大学創立45周年を記念して下記のように展覧会を行い、多くの方にご来場いただきました。

◆旅の版画家 川瀬巴水—大正・昭和の懐かしい風景—

会 期：前期=5月25日(火)~6月12日(土) 後期=6月15日(火)~7月3日(土)  
 特別協力：株式会社渡邊木版美術画舗  
 内 容：川瀬巴水(かわせはすい、1883~1957)は、版元・渡邊庄三郎と組み、浮世絵の伝統を活かした新しい木版画の創造を目指して600点をこえる作品を制作した大正・昭和を代表する風景版画家です。瑞々しく実験的な大正7年(1918)の処女作から、絶筆となった昭和32年(1957)の作品まで、その代表作を展示し、全国津々浦々の自然や風俗を描き続けた巴水の画業を紹介。千葉に取材した作品では、スケッチや原画などの関連資料を展示し、写生旅行から版画作品となるまでの過程にも注目しました。木版画独特の美とどこか懐かしい風景をご鑑賞いただきました。

関連企画：(1)講演会 6月19日(土)  
 演題：「近代日本版画の潮流と渡辺版画店」  
 講師：渡邊章一郎氏(株式会社渡邊木版美術画舗代表取締役)  
 (2)学芸員によるギャラリートーク 6月5日(土)、26日(土)



◆森洋子展—子どもたちのみる夢— 水田宗子詩集『サンタバーバラの夏休み』出版記念

会 期：7月6日(火)~24日(土)  
 内 容：学校法人城西大学水田宗子理事長の詩集『サンタバーバラの夏休み』の出版を記念し、詩と詩に寄せられた森洋子(本学福祉総合学部助教)の挿絵の原画を展示しました。あわせて、昔話や12ヶ月の景物を題材にしたペン画シリーズ、ボール紙で作られた図書館や映画館のミニチュアなど、森洋子の楽しくも摩訶不思議な作品世界を紹介しました。キリンやライオンといった動物や少年少女が登場する詩や絵には、親しみやすさと同時に、純真な魂のもつ残酷さや不安などが表れ、みる人々の感情や想像力を刺激します。お子さまから大人の方までお楽しみいただきました。

関連企画：福祉総合学部子ども福祉コース アートフェスタ  
 日時：7月16日(金)  
 内容：展覧会鑑賞と学生たちによるパフォーマンス  
 対象：年長児  
 場所：図書館1Fオリエンテーションルーム



◆水田コレクション展 浮世絵の版元と出版

会 期：9月28日(火)~10月16日(土)  
 内 容：浮世絵版画の企画から宣伝、販売までを一に行うのが「版元」です。その売れ行きは、大衆の好みや流行を先取りし、人気絵師に注文する版元の手腕にかかっており、無名の東洲斎写楽(とうしゅうさいしゃらく)を売り出した蔦屋重三郎(つたやじゅうざぶろう)は、その卓越した例といえます。一方で、出版活動が活発になると幕府の取り締まりが強化され、寛政期(1789~1801)には検閲制度がはじまりました。本展では、初期浮世絵から寛政期以降、幕末、さらに明治・大正までの作品を展示し、作品画面上の「版元印」や「改印」に着目しながら、浮世絵版画を出版の歴史から捉えました。

関連企画：学芸員によるギャラリートーク 10月2日(土)、9日(土)



◆石版画の開拓者 知られざる明治美術 石井鼎湖

会 期：10月30日(土)~11月27日(土)  
 内 容：千葉ゆかりの文人画家・鈴木鷺湖(がこ)の次男として生まれた石井鼎湖(ていこ、1848~97)は、23歳より大蔵省に出仕し、紙幣や公債証券の図作成に従事するとともに、最新の石版画技術を学び、日本で初めて多色刷りのクロモ石版画を作り出しました。一方で、幼少より文人画の手ほどきをうけ、洋画も学んだ鼎湖は、鷺湖風の文人画など様々な画風の作品を手がけ、精研会展や日本美術協会展に出品して受賞を重ねています。本展では、石版画のみならず、従来あまり知られていない日本画や水彩画を展示し、日本近代美術の黎明期を生きた鼎湖の画業を紹介しました。

関連企画：(1)講演会 11月13日(土) 13:30~15:00  
 演題：石井鼎湖と明治初期の銅・石版画  
 講師：森登氏(学藝書院代表)  
 (2)学芸員によるギャラリートーク 11月20日(土)、27日(土)



房総地域(次世代育成・地域活性化)

みね おか  
**嶺岡林道桜並木修復プロジェクトに社団法人霞会館からも桜50本寄贈**

2010年4月10日、学校法人城西大学創立45周年を記念して創立者水田三喜男先生の生家を会場に、さくら祭りが行われました。

今回のさくら祭りでは、嶺岡林道桜並木修復プロジェクトの取り組みに協賛くださった社団法人霞会館(理事長:北白川道久)から、50本の桜の寄贈を受けました。社団法人霞会館は政治、経済、社会、文化等各方面にわたって国際的な視野から調査研究し、日本固有の伝統的な精神文化を後世に伝え、健全な国民の育成及び社会福祉の増進に寄与することを目的とした団体です。観光学部の創設とともに始まったプロジェクトが4年目を迎え、第一期生が卒業するこのような年に寄贈を受けたことは、活動への協賛の広がりを実感させてくれます。

植樹式で水田宗子理事長は「霞会館からいただいた桜を心こめて植えたいと思います。また今年は観光学部の一期生は100%の就職率を達成できました。地元の皆さまに御礼申し上げます」とあいさつしました。このあと、片桐有而鴨川市長や地元ガールスカウト、観光学部生らが水田理事長とともに桜を植樹しました。

さくら祭りでは、安房高校吹奏楽部の演奏や学生デュオLOFTのコンサートなどが催され、地元のみならずとも嶺岡の春を楽しみました。

また、このさくら祭りに先立って「ウォーキング in 嶺岡中央林道」があり、約430人が参加して安房キャンパスから生家までの約12キロを歩きました。



45周年を記念してさくらを植樹

**さくら祭りテーマソング『サクラホーム』が完成**

2010年に学校法人城西大学が創立45周年を迎えたことを記念して、嶺岡桜並木修復プロジェクトをより一層広げようと、さくら祭りのテーマソング『サクラホーム』が完成しました。これは、テーマソングの作詞・作曲の依頼を受けて、城西国際大学フォークデュオLOFTが完成させたものです。

このテーマソングは、郷土の活性化を願って地元の皆さんと500本の桜を嶺岡林道に植栽した創立者水田三喜男先生に捧げられています。

『サクラホーム』は、2010年10月16日に行われた観光学部・安房キャンパスでの「第5回ウェルネス交流DAY」で初めて披露され、交流DAYに参加した城西大学・城西国際大学のハンガリー留学生たちも一緒に歌いました。



さくら祭りのテーマソングを発表したLOFT

**嶺岡林道 桜並木修復プロジェクト**

昭和40年代、創設者水田三喜男は、嶺岡林道の保全と郷土の活性化を願って、多くの地元の皆さんとともに500本の桜を植栽しました。これらの桜は、「水田桜」として親しまれてきました。

大学では、先人たちの想いを継いで、2006年に「嶺岡林道桜並木修復プロジェクト」を立ち上げ、観光学部の学生たちが修復活動を始めました。30年の時を超えてつながった並木修復プロジェクトは、外房と内房を結ぶ重要路である嶺岡林道の歴史を調べ、その周辺に残された自然や文化について学び、環境について考え、そして地元の皆さんとともに植栽や桜の手入れ、下草刈りなどを進めて、並木を後世に伝えていくことを目的としています。鴨川観光協会長や千葉県議会議員のほか企業からも後援をいただいております。

今後わたしたちは「嶺岡林道桜並木」を鴨川市の新たな名所に育てる計画です。

◆桜並木修復プロジェクト <http://www.jiu.ac.jp/sakura/>

房総地域(次世代育成・地域活性化)

**城西国際大学薬草園の活動  
 地域の方々と一緒に学ぶ「体験講座」**

薬草園では、地域の皆様方に身近な薬用植物について親しみ学んでいただきたいと2009年度より体験講座を開催しています。

「レンジで押し花作り」の体験講座では、参加者の皆様方が持参した花や葉を、電子レンジ専用のプレートを使って、押し花にします。できあがった押し花はハガキやストラップ、カードなど小物にすることもでき、彩り豊かな作品が生まれています。

また、2010年度から新たに「身近な薬草かんたんクッキング」を開催しました。実習ではツルナと松の実の和え物やミントの葉やポリジの花を砂糖でコーティングし乾燥させたクリスタライズドハーブ、レモンやクエン酸でピンク色に変化するコモンマロー(花)のティー、乾燥したタンポポの根やハトムギの種子をホウロクで煎った芳ばしい香りのティーなどの作り方や味を体験しています。

クッキングに使う薬草の中には、食材としては初めて口にされた方もいらっしゃるようですが、薬草の効能とともに自然の味を楽しんでいたいです。

また、自宅でも薬草に親しんでいただこうと、参加された方には毎回、ベニバナやサフラン、ルバーブ、ロケットなどの種苗も配布しています。

薬草園では、地域の皆様方と一緒に、薬用植物と親しみ学べる場所として、さまざまな活動を続けていきます。

◆JIU 薬草園 <http://www.jiu.ac.jp/yakusouen/index.html>



クッキング実習風景



ハーブティーやお菓子



押し花を使ったハガキやしおり

**水田宗子杯女子ソフトボール大会**

2010年8月21日・22日に城西国際大学東金キャンパスグラウンドおよび水田記念球場にて、「第2回水田宗子杯女子ソフトボール大会」が開催されました。

本学は地域に根ざした総合大学として、様々な形で社会に貢献できる人材の育成に努めています。スポーツ活動を通じた人間形成がより一層の地域や社会の活性化につながることを期待して昨年水田宗子杯が設けられたものです。

参加した11校の生徒たちは、3会場に分かれ白熱した試合が繰り広げられました。

県外からは、浦和実業高等学校と東海大菅生高等学校も参加し、活気のある大会となりました。2日間にわたって熱戦が繰り広げられ、敬愛大学八日市場高等学校が二連覇を果たし優勝杯と楯が贈呈されました。



白熱した試合の様子

- |                        |                     |
|------------------------|---------------------|
| <b>優勝</b> 敬愛大学八日市場高等学校 | 出場高校は、次のとおりです。(順不同) |
| <b>準優勝</b> 千葉黎明高等学校    | ・千葉黎明高等学校           |
| <b>第3位</b> 成田国際高等学校    | ・敬愛大学八日市場高等学校       |
|                        | ・成田国際高等学校           |
|                        | ・東金高等学校             |
|                        | ・東金商業高等学校           |
|                        | ・千城台高等学校            |
|                        | ・茂原高等学校             |
|                        | ・浦和実業高等学校           |
|                        | ・幕張総合高等学校           |
|                        | ・東海大菅生高等学校          |
|                        | ・佐倉高等学校             |



文化財修復・保存(次世代育成・地域活性化)

水田三喜男生家を修復、保存～そして文化財登録へ

・水田家の由来

旧水田家がある旧曾呂村(鴨川市)は、嶺岡山脈の南麓を東から西へ通じる道を中心とした五百戸余りの山村で、嶺岡山は、わが国酪農の発祥地として知られています。

江戸時代からこのあたりでは毎年5月、大変なにぎわいの中、馬捕りの行事が行われており、そこに幕府の役人が来て牛馬を見定めする場所を陣屋と称しましたが、庄屋のような役割を果たし、村の指導的立場にあった水田家は、この陣屋と地続きとなっていました。また、江戸後期に作られたこの家は、大正12年の関東大震災でも近隣の建物がほとんど崩壊した中でも、無事に残りました。

・旧水田家住宅の特徴

「重厚な長屋門の入口が額となって、茅葺の寄棟造の母屋が望まれる。東側を土間とし、囲炉裏を切った15畳の座敷を中心に、5室からなる豪農の家である。西側に縁側をそなえ、南面に瓦葺の下屋を差し掛けた房総民室の特徴を示している。

長屋門の左右には、それぞれ牛小屋が置かれ、かつて嶺岡牧場と関わる酪農を営んでいたことを物語っている。

これら母屋、長屋門は、優に百数十年以上経て居り、貴重な文化財として、文化庁に登録されているが、篤農の堅実さと、安房特有の進取の気象の見事な結晶といってよい。また、この家屋の一隅にある書齋から、遠き潮騒を夢見ながら、ひとりの有為な青年が巣立っていった。城西大学の創立者、水田三喜男である。戦後の日本経済再建の偉業は、そのまま継承され、「学問を通じての人間形成」の理念となった。その母胎こそ、まさに、この家屋なのである。」とのコメントを城西国際大学前水田記念図書館長井上辰雄氏が寄せています。

・修復事業

この生家を、同窓生が呼びかけて、城西大学同窓会30周年記念事業として、創立者の偉業をたたえ、城西大学の建学の精神はもとより後世にその功績を伝えるため、修復・保全に取り組みました。

創立者が過ごした当時の姿を取り戻した生家では、昔の酪農家の暮らしぶりや古い建物に見える工夫を実際に目にすることができ、同窓生や学生をはじめ、留学生や地域の子どもたちが数多く訪れています。また、桜やノボタン、新緑や紅葉の季節に合わせて何度も訪れる方や、遠方からわざわざいらっしゃる方もいて、2002年に一般公開を始めて以来、毎月400名ほどが見学されています。

・文化財としての価値

2002年に、長屋門と母屋が国の登録有形文化財として登録されました。

また、地域の特性や周辺環境に十分な配慮がなされ、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出したことを評価され第10回千葉県建築文化賞を受賞しています。



修復後の長屋門

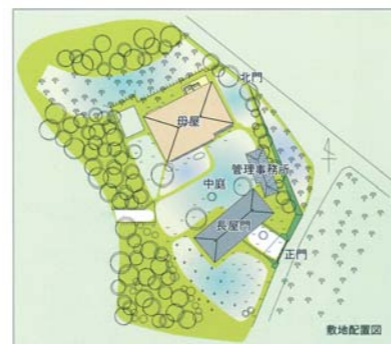


母屋 内観

修復前の長屋門



母屋



◆ 旧水田家住宅 <http://www.jiu.ac.jp/mizutake/index.html>

建築賞受賞(次世代育成・地域活性化)

多数の建築賞を受賞しています

❖ 清光会館

1992年さいたま景観賞

清光会館は、新しい大学に求められる国際化・情報化に対応し、1992年に完成した城西大学の中核を担うシンボリックな建物です。城西大学の学術・文化のシンボルとして、集中管理された高い機能と充実した施設・設備を誇っています。

同年、秩父の丘陵を望むその美しい外観によって埼玉県景観賞を受賞しました。



❖ 清光会館

❖ 鋸南セミナーハウス

2005年度 第12回 千葉県建築文化賞「景観に配慮した建築物」  
2006年 第32回 東京建築賞建築作品コンクール「優秀賞」

鋸南セミナーハウスは創立35周年を記念して、城西大学同窓会の協賛もいただき2004年に建設されました。

豊かな自然を取り込むための半野外空間の構成に重点を置き、木目の奥行きのある内外のリズミカルなシーンの展開により、美しいたたずまいとなっています。その心地よさと周囲の景観にふさわしい建物であることが評価され、千葉県建築文化賞と東京建築賞において「優秀賞」を受賞いたしました。



❖ 鋸南セミナーハウス

❖ 城西大学 経営学部棟

2008年 全米建築学会 Merit賞

城西大学経営学部棟は、米国建築家協会(AIA: American Institute of Architects) ニューヨーク支部より2008年度メリット賞を受賞しました。

AIAは2008年度にはじめて教育的な建物(2001年1月11日以降完成の建物)についての部門を設け、その栄えある第一号を経営学部棟が受賞しました。



❖ 城西大学 経営学部棟

❖ JIUランドスケープデザイン

1996年日本建築学会賞  
2006年度日本造園学会賞

城西国際大学では、自然景観と調和したキャンパスを目指してきました。そのランドスケープデザインに対し、「端正な中にも透明感と伸びやかさ」がある「成長するキャンパス」との評価を受け、日本建築学会賞と日本造園学会賞を受賞しました。



❖ JIUランドスケープデザイン

❖ 旧水田家住宅

2003年度 第10回千葉県建築文化賞

地域の特性や周辺環境に十分な配慮がなされ、建築物と外部空間が一体となって魅力ある景観を創出したことを評価され第10回千葉県建築文化賞を受賞しています。

※写真については、左ページをご覧ください。

## 子どもたちとともに(次世代育成)

### 地域の子どもたちとともに「キッズシアター」開設

2010年10月30日、地域の子どもたちの交流の場として「キッズシアター」を開設しました。音楽や踊りなどを通じた子どもたちの自己表現の舞台、健やかに成長していく場として、自然豊かな森の中の劇場をイメージした野外施設です。また、城西国際大学福祉総合学部子ども福祉コースの学生が、授業で学んだ様々な表現技術を子どもたちに向けて実演する場所でもあります。この「キッズシアター」と2008年にオープンした「キッズ・ライブラリー」は、ユネスコ「子どもたちへの平和の教育と行動を促す活動」などの国際的な理念に基づいています。

キッズシアターのオープニングには、ハンガリーのボハール・エルヌー大使を迎えてテープカットがなされ、鴨川市曾呂地域の伝統文化として継承されている「神楽獅子舞」が披露されました。また鴨川の子どもたちのアマチュア音楽グループ「ひまわりキッズ&フルール」が5匹のこぶたとチャールストンなどのミュージカルを華やかに演じました。

福祉総合学部では、2011年度より幼稚園教諭一種の取得課程が開設となり、地域の子育てと教育の一翼を担う大学として地域からの期待が大きくなっています。大学の社会的使命として、地域の子どもの健全育成を支援し、また、留学生を通じて外国の民話や音楽を紹介して国際的な広がりのある施設に成長させていきます。



ひまわりキッズ&フルールによるミュージカル

### 子どもインターナショナルプレイランド開催

子どもインターナショナルプレイランドは、地域のなかに親子の居場所や、心配事を気軽に相談できる場所を提供しようと、キッズ・ライブラリーで開催しているものです。

城西国際大学福祉総合学部子ども福祉コースの学生たちが、地域に根ざした育児支援の場を開催して、親子が育児によって孤立しないよう、大学で学んだことを活かして、参加される親子とともに模索しています。保育士資格取得を目指す学生たちは子育ての楽しみや喜びのほか、苦勞を聞くことで、子育てを支援するために出来ることをより深く考えるようになりました。また、子どもの年齢に応じた遊びや関わり方を体験して、生きた学びをしています。その他にも、子どもたちに国際的な体験をしてもらうため、留学生や外国人教員による絵本の読み聞かせも行っています。

地域の子どもたちが、様々な年齢の子ども同士での遊びを楽しみ、世界に触れ、また、お母さん・お父さんにはささない心配事も気軽に相談できる場所として立ち寄ってもらえるように、月に一度、定期的の実施しています。



留学生といっしょに遊ぶ子どもたち

### 子どもたちの笑顔をテーマに「アートフェスタ」開催

2010年7月16日に城西国際大学総合福祉学部子ども福祉コースの4年生の学生による「子ども福祉コース アートフェスタ」を開催しました。

地域の子どもたちに、アートに親んでもらおうと、東金市立第三保育所の五歳児クラスの皆さんたちを招いて行いました。学生は子どもたちと一緒に水田美術館で開催中の『森洋子展—子どもたちの見る夢』で、動物の絵や紙でつくった建物を間近で見学しました。また、子ども福祉コースの学生が作って準備した、たてがみを書きいれて完成させるライオンの塗り絵や、段ボールに色付けして作ったキリンへの玉入れ、そして絵合わせゲームをして楽しみました。子どもたちはきれいに塗られた絵や自分たちの背よりも大きなキリンに目を輝かせていました。

このアートフェスタのために4年生たちは4月から準備や企画を始め、紙芝居や塗り絵の創作、ゲームの練習に取り組みました。将来保育士を目指す学生にとっても大変密度の濃い、よい経験となりました。



キリンの玉入れ

## 子どもたちとともに(次世代育成)

### キッズ・ライブラリーで読み聞かせ

成東駅前にあるキッズ・ライブラリーは、世界から善意で集まった絵本が二千冊以上あり、実際に手にとって読んでもらうことができる児童図書館です。城西国際大学の留学生同様に中国、ノルウェー、イギリス、スペイン、ハンガリー等の各国からの絵本が揃っています。子どもの心を持つ大人の方の利用も歓迎しています。駅前という場所柄、気楽に立ち寄って情緒豊かな絵本に手にしていただける場所として利用されています。

キッズ・ライブラリーでは、毎月第一土曜日に【絵本の読み聞かせとみんなで童謡を歌おう】を開催しています。子どもから高齢者の方々まで、どなたでもご参加できます。親子で絵本を読んだり、子どもとお年寄りが一緒になって、わらべうたを歌ったり、手遊びをしたり、また、学内のボランティアサークル「スターダスト・キッズ」の学生とともに手話コーラスを楽しんでいます。



読み聞かせで紙芝居

### 川口クリスマスイルミネーション開催

保育士を目指す城西国際大学福祉総合学部子ども福祉コースの基礎ゼミの学生が主体となって、毎年地域の親子を招待し、近隣の乳幼児をはじめ小学生もたくさん参加して、クリスマスイルミネーションを開催しています。

イルミネーションの装飾は、基礎ゼミの授業のなかで、全て手作りします。学生たちは、子どもにまつわる行事を時間をかけて作り上げることで企画力・運営力を身につけます。

光がもれるようにくり抜いて装飾した空き缶をたくさん並べて型どった巨大なツリーに、学生が子どもと一緒にひとつひとつ点灯すると、真っ暗な夜の中、ほのかに揺れるろうそくの光が幻想的に浮かび上がります。ツリーを囲んで、子どもたちと一緒にクリスマスソングを歌って楽しい時間を過ごします。

2010年で3年目を迎えるクリスマスイルミネーションは、地域のメディアにも取り上げられ、楓の並木道に点灯されるイルミネーションとともに、城西国際大学の風物詩の一つになっています。



色とりどりのイルミネーション

### 城西国際大学硬式野球部 東金市内の少年球児に実技指導

地域の少年野球チームの子どもたちに野球の基礎技術を学んでもらおうと、城西国際大学硬式野球部と浅井病院野球部、東金商工会議所が共催して「東金少年野球教室」を2011年1月9日に開催しました。東金市内7チームの少年球児約100名が参加して本学の水田記念球場で行われました。

教室では野球部員らがピッチングやバッティング、捕球の基本姿勢などについてきめ細かく指導しました。佐藤清監督は「今日教わった技を一つでも日常の練習に取り入れてほしい」と球児たちにアドバイスしました。参加した球児からは「自分の知らない投げ方やプレーを教えてもらった」「中学でも野球を続けていきたい」などの感想があり、指導にあたった野球部員は手ごたえを感じていました。

また、2010年秋、城西国際大学野球部から、黒沢翔太投手が育成選手として千葉ロッテマリーンズと入団契約を結んだことから、参加7チームに黒沢選手のサイン入りボールと色紙を手渡しました。



全員で記念撮影

政策提言による社会貢献(次世代育成)

文部科学省学生支援推進(GP)事業  
介護の国際基準と専門職養成プログラムの開発に向けて

～ノルウェー・フィンランド視察:高齢者福祉に関する政策・サービス・人材育成について～

城西国際大学福祉総合学部では9月7日から16日まで、ノルウェーとフィンランドにおける高齢者福祉の政策・サービスおよび介護人材養成のプログラム等について視察しました。

ノルウェーでは、介護専門職養成学校を視察し、福祉の長期計画策定に関わる独立研究機関のNIFU STEP (Norsk institutt for Studier av Innovation, Forskning og Utdanning) で、これからの介護人材養成に関する計画内容を聞きました。また、オスロ市内にある高齢者施設カティンカ・グルベルグ・センター (Cathinka Guldberg Senteret) で、介護専門職の業務内容を視察しました。



オスロ大学の図書館にて

フィンランド・ヴィヒティ町では、病院、薬局、高齢者施設などの医療と福祉関係の施設連携が実践されており、専門職教育が行われている研修センターで2日間にわたって視察しました。

研修で訪れた姉妹校のノルウェー・オスロ大学とフィンランド・北カレリア応用科学大学では、GP事業の目的である介護の国際基準づくりや専門職養成プログラムについて、大変高い関心を得られました。このふたつの大学に加え、カナダ・ブリティッシュコロンビア大学、中国・大連理工大学、中国・大連外国語大学、フィリピン・アテネオデマニラ大学、オーストラリア・ジェームズクック大学とともに「国際介護基準と介護専門職養成プログラムの開発」をテーマにインターネット・ディスカッションを開始しました。これは、研究者が参加して共同研究のための意見交換を行うものです。参加各国の国内福祉事情をまとめたレポートを作成したのち、国際介護基準や介護専門職養成プログラムについて意見交換を行っていきます。

第1回 日中経済経営フォーラム JOSAI

2010年12月20日、東京紀尾井町キャンパスで「中国の経済発展はどこに向かうのか」をテーマに、「第1回 日中経済経営フォーラム JOSAI」が開催されました。学校法人城西大学は、中国とくに大連と関係を深めており、フォーラム開催が日中の相互理解と関係性を深める機会となるように、学校法人城西大学現代政策研究センター主催、学校法人城西大学国際学術文化振興センターが共催したものです。



大連市日本経済貿易事務所 陳玉石総代表の講演

フォーラムでは、まず大連市日本経済貿易事務所の陳玉石総代表が「大連経済技術開発区の現状と今後」について講演しました。陳総代表は1980年代の開発当時から、産業施設だけでなく、大学などの教育、スポーツ・娯楽施設などを完備した人口55万人の「都市」にまで発展した経済技術開発区の歴史について説明されました。続いて学校法人城西大学と学術交流協定を結んでいる大連理工大学工商管理學院の遲国泰教授が「中国金融業界の近況」について講演されました。

会場には大連を中心とした中国への進出企業の関係者や大連からの留学生らが詰めかけました。会場に入りきれず、ホール外に設置された中継テレビで講演を聴く学生の姿も見られました。質疑応答も活発になされ、企業関係者からの高い関心がうかがえました。

政策提言による社会貢献(次世代育成)

シンポジウム「若手政策ダイアログ」

2010年6月26日に東京紀尾井町キャンパスで「若手政策ダイアログ」が開催されました。若手の政策集団ネットワーク(BNJ)主催、学生団体ivote、NPO政策過程研究機構共催、城西国際大学大学院人文科学研究科国際アドミニストレーション専攻後援のこのダイアログ開催の目的は、参議院選挙を前に若手が政策形成にどう参画すべきか、これからの社会に何を提供すべきかを討論するシンポジウムでした。



討論する学生たち

パネリストとして前衆議院議員、元内閣府特命担当金融大臣伊藤 達也氏、「若者はなぜ3年で会社をやめるのか」の著者 城繁幸氏、歴代首相に近くメディアに出演している時事通信社解説委員長田崎史郎氏をゲストとしてお招きし、学生代表として東京大学、千葉大学、城西国際大学からは3人の学生が参加しました。城西国際大学国際アドミニストレーション専攻2年生の島山和也君が討論に参加しました。

会場には政策提言に興味のある若い学生、社会人、政策作成関係者など約100名が参加し、パネラーとともに自己の経験をベースに、若い世代として政治をどう変えていくべきかを熱心に討論しました。

日本地方自治研究学会

2010年9月18・19日に日本地方自治研究学会第27回全国大会が城西大学にて開催されました。統一テーマは、「地方分権と地域経済の活性化」です。大会では、上田清司埼玉県知事の特別講演が開催され、「結果を出す行政～埼玉の取組み～」のテーマで行われました。参加者は川越市、坂戸市、鶴ヶ島市、東松山市、秩父市、越生町、毛呂山町など近隣の商工会、ロータリークラブ、ライオンズクラブ、老人会、NPO法人、地域住民の方々413名にのびりました。



上田知事による特別講演

知事特別講演に次いで、「埼玉の地域経済の活性化」のテーマでシンポジウムが開催されました。埼玉の地域経済をどのようにして活性化させるかについて、活発な討論が展開されました。19日には、「地方はなぜ疲弊するのか?」のテーマで、学会会員と地域住民や地域の行政担当者による公開討論会が開催されました。この討論会では「地方自治カフェ」と称する約10組のグループディスカッションを行い、討論の成果をグループ別に発表しました。約100名の参加者があり、参加した多くの方々から「地域について考える討論会に参加し貴重な体験ができた」と満足の声寄せられました。

グローバル政策イニシアティブ(GPI)フォーラム2010開催

2010年11月27日、東京紀尾井町キャンパスで『グローバル政策イニシアティブ(GPI)フォーラム2010』が行われました。独立行政法人国際交流基金が後援を行い、JICPASおよび城西国際大学大学院国際アドミニストレーション専攻が共催しました。



第1部:ディスカッション

「対内・対外政策の戦略的融合」を総合テーマとし、第1部では、「政策羅針盤」会議として、衆議院議員中林美恵子氏をはじめ、財政、外交、人口問題、国内予算制度等それぞれの専門の方が発表を行いました。現政権の問題点や、国際政治、経済等様々な角度から、現在および今後の政策について、白熱した議論が行われました。城西国際大学からは大学院アドミニストレーション専攻鈴木崇弘客員教授がコーディネーターとして、参加しました。

第2部では、「外国人労働者をより良く受け入れるための政策選択とは:日米知識共有」をテーマに議論がなされました。それぞれの専門家が移民問題、雇用問題、米国移民労働者政策について発表されました。会場には城西国際大学の学生、一般来場客含め、70名が出席し、質疑応答などでも活発な意見が交わされました。

## 「ハンガリーとの架け橋の役割に期待」

在ハンガリー  
日本国大使  
伊藤 哲雄氏



城西大学とハンガリーとの交流については、2007年にブダペスト商科大学との間で学術交流協定が締結された後、城西大学にハンガリー語講座が開設され、留学や研修のための学生の相互訪問や、教育実習を目的としたハンガリーへの学生派遣が定期的に行われるようになって、両大学間の交流が活発化しました。また、大統領、教育文化大臣、国会議員などのハンガリー要人が訪日の際に紀尾井町キャンパスを訪れ、学生と交流すると共に城西大学でのハンガリー語教育と交流活動に感謝の意を表しました。また、2009年12月の大統領の訪問の機に、ハンガリーの学生を対象とした「水田ハンガリー奨学金」が創設され、ブダペスト商科大学に加えて、エトヴェシュ・ロラード大学やセント・イシュトバーン大学からも城西大学への留学が可能になりました。日ハ双方の学生の皆さんにとって、実際に互いの国を訪れ、その文化や人々に触れることは、素晴らしい経験となり、大きな励みとなります。特に、アジアに民族の起源を有し、親日的なハンガリーでは日本の学生を大歓迎してくれます。このような経験をした城西大学の学生の皆さんが、将来、日本とハンガリーとの間の架け橋として大いに活躍してくれることを心から期待します。

## 「産学連携で人材育成」

日活株式会社  
代表取締役社長  
佐藤 直樹氏



2010年6月10日、私どもは、「連携協力に関する包括協定」を城西国際大学と締結いたしました。これにより、2011年4月に城西国際大学メディア学部の新設される映像芸術コースにおいて、日活撮影所という伝統ある映画撮影所を学びの場とする新しい実践教育へ参画できますことを大変喜んでおります。

グローバルな流れは映画産業にも及んでおり、実際の仕事においては、あらゆることが、軽々と国境を越えています。今後は、日本だけにとどまらず、世界の映画界を対象に活躍できる人材が求められていると痛感しているところです。

そこで、映画界と城西国際大学との全く新しいコラボレーションであるこの協定締結によって、アニメーション、コミック、音楽、映画など近年の我が国におけるコンテンツ産業強化の流れの中で、デジタル時代における新しい映画教育事業として、国際的なフィールドにおいて、次世代の映像文化を創造し、広く社会文化へ貢献する人材の育成が図れるのではないかと大いに期待しています。

## 「混迷の時代こそ、高き志を」

株式会社文化放送  
代表取締役社長  
三木 明博氏



城西大学、城西国際大学とは、2004年の「林家正蔵のサンデーユニバーシティ」という番組と一緒に始めてからより深い繋がりができました。いまは城西国際大学の客員教授も務める林家正蔵さんと大学の幅広い分野の知識を一般の方々に向け、わかりやすく発信していく仕事は、大変意義あるものと捉え、途切れることなく取り組んできました。

嘗て、我々はバブルの再来を願って「カリスマ的リーダー」を求めましたが、今や同じ意志・価値観を持つ者同士が連帯し、問題解決に手を携える「仲間力の時代」であると思います。この様な時代に必要なのは、目の前の事象だけでなく、世界で起きている出来事を読み取る「知の力」であり、他者の為に何かをなす「志と行動力」でしょう。「微差が大差を生む」ともいいます。学校法人城西大学において、今後も社会貢献のできる高き志をもった人材を数多く育て、輩出されることを切に望みます。

## 「地域活性化を大学とともに」

東金市長  
志賀 直温氏



学校法人城西大学におかれましては、教育・研究のみならず社会貢献も大学の使命と位置付けられ、多彩な社会貢献活動に取り組まれていることに敬意を表します。

本市におきましても、市の各種施策のとりまとめや実施に際して、大学のご協力をいただき、感謝しております。

また、大学の人材、知的財産を有効に活用され、エクステンション講座の開講、水田美術館の設置やカリヨン通りの開設をいただくなど、地域に開かれ、地域に根差した大学として、その存在感や信頼感を高めておられます。

今日の社会は、連携・協働の時代を迎え、多様な資源を持つそれぞれの主体が相互に交流することにより、新たな価値が創造されます。

地域と大学が、様々な知の財産を活用し、連携と協働を推進していくことにより、地域のニーズと大学のシーズ(種)が融合し、地域の活性化が図られ、魅力が高まるものと考えます。

今後も学校法人城西大学が、地域の構成員として、また知の拠点として、一層の地域貢献策の充実をされることを期待します。

結びに、学校法人城西大学の益々のご発展を祈念いたしまして、私のメッセージとさせていただきます。

### 編集後記

2010年度版学校法人城西大学社会貢献活動報告書をお届けできることを大変うれしく思います。取組事例を本学が社会貢献活動を行うに際し、特に大切にしているキーワードごとに分類し紹介いたしましたので、どうぞご覧ください。また、美術館関係と建築関係については、年度を超えて掲載してあります。

2008年にはじめて社会貢献活動報告を作成しましたが、その作業を通じ、学校法人全体として、自らの活動内容を把握し、その意義の確認をするとともに、反省や工夫を次年度へ活かすことができました。

また、2009年度版をご覧になった多くの方から、大学がしている社会貢献活動の全体像がわかり、多岐にわたっての活動に驚くとともに共感を覚えたので、これから自分ができることがあれば、ぜひ協力したいと思いますとの声が寄せられました。大学を取り巻く方々との連携を取りながら、今後の活動に活かしたいと願っております。

この報告書により城西大学・城西国際大学・城西短期大学の活動にご理解をいただくとともに皆様からの忌憚のないご意見をお寄せいただければ、幸いです。

学校法人城西大学 法人本部  
社会貢献推進チーム  
社会貢献活動報告書作成チーム

〈表紙デザインについて〉

### 坂戸キャンパスに植樹されたアカシア

これは、2007年6月5日姉妹校である大連理工大学管理学院蘇敬勳大学院院長が来学された折、両校の友好関係がさらに深まるようにとの願いを込めて3本植樹されたものです。アカシアは大連市のシンボルであり、アカシアの花は友情を結ぶとされています。毎年5月になると一斉にアカシアの花が咲き誇り、街中がかぐわしい香りに包まれ、美しい海と砂浜の街大連に更にきらびやかな姿を添えています。大連理工大学管理学院と城西大学経営学研究所は、この植樹を契機にさらに交流を深め、JMBAという共同の大学院のコースを設置し、多数の優秀な学生が城西大学で学び、巣立っています。



2007年の記念植樹式にて

満開のアカシアと清光会館